

2026年3月期

決算説明会資料

2026年6月8日

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

本決算のポイント

本決算説明会において、
ご注目いただきたいポイントは以下の3点

1

GX事業が着実に前進

- 受注は中期経営計画を上回り、売上・利益とも概ね計画どおり推移し黒字化、成長事業として順調に立ち上がり
- Quick-Win分野である「クリーンエネルギー事業」に資する案件を中心に複数件獲得
 - 水素利活用関連の大型案件
 - 藻類利活用関連の案件

2

営業利益が 中期経営計画を大幅超過達成

- 2026年3月期は、全事業でセグメント利益は計画を超過達成
- 来期についても、営業利益は計画を超過達成の予想
受注高・売上高も、ともに中計対比で増加、高水準を維持

3

経営ビジョンのアップデート

- 連結売上高1,000億円への到達見通し時期を、2035年度から2029年度へと6年前倒し
- 2035年度の連結売上高見通し数値を、1,000億円から1,200～1,400億円へと上方修正

(注) 本資料内の下線のある用語は、当社ウェブサイトに掲載する別紙(用語集)に用語説明を掲載しています。
[URL] <https://www.kakoki.co.jp/ir/library/materials/>

目次

本決算のポイント	P. 2
Ⅰ. サマリー・外部環境認識	P. 4
Ⅱ. 2026年3月期通期決算実績	P. 9
Ⅲ. 2027年3月期通期業績予想	P. 18
Ⅳ. 中期経営計画(2025年度～2027年度) 1年目の進捗状況	P. 24
Ⅴ. 三菱化工機グループ2050経営ビジョンのアップデート	P. 34
Appendix 1. 業績推移	P. 39
Appendix 2. 会社概要	P. 43
Appendix 3. 当社の強み・ビジネスモデル	P. 51

I. サマリー・外部環境認識

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

サマリー

■ 財務サマリー(2026年3月期 決算実績、2027年3月期 通期業績予想)

2026/3 実績	受注高	71,332 百万円 (前期比 +10%) 中期経営計画: 69,500 百万円	(前期比+) 第4四半期に受注を大きく伸ばし、計画値を達成
	売上高	84,240 百万円 (前期比 +42%) 中期経営計画: 84,500 百万円	(前期比+) 前期までに受注した大型工事案件の順調な進捗、船舶向け機器・部品の好調な販売が寄与
	営業利益	9,181 百万円 (前期比 +61%) 中期経営計画: 7,500 百万円	(前期比+) 売上総利益の増加に加え、エンジニアリング事業の完工工事のコスト改善、単体機械事業のアフターサービス部品・工事等が寄与し、前期比で大幅に増加
2027/3 通期予想	受注高	81,000 百万円 (前期比 +14%) 中期経営計画: 80,000 百万円 (前期比: +9,667 百万円)	(前期比+) 半導体素材関連プラントやケミカルプラントなどエンジニアリング事業の受注増により、前期比増加を見込む
	売上高	80,000 百万円 (前期比 ▲5%) 中期経営計画: 77,000 百万円 (前期比: ▲4,240 百万円)	(前期比-) 複数の大型案件が上期に完工するため前期比で減少するが、中計以上の水準を見込む
	営業利益	8,800 百万円 (前期比 ▲4%) 中期経営計画: 7,500 百万円 (前期比: ▲381 百万円)	(前期比-) 売上高の減少に伴い売上総利益は減少するが、営業利益率は改善を見込む
	年間配当	120 円/株 (前期比 +5 円) 中期経営計画: 90 円/株	(前期比+) 配当性向: 40% (前期比: +5 ポイント)



外部環境認識

- 脱炭素社会の構築に関して、当社ビジネスの大部分を占める日本では、関連法令整備が進むなど着実に進展
- 日本政府は成長戦略として17の戦略分野を選定
- 中東地域における地政学リスクの顕在化により、原油・ナフサ等に関連する供給不安が広まる

当社が着目する外部環境のトピックス

クリーンエネルギー・循環型社会への移行

水素など
クリーンエネルギーの需要増

水素サプライチェーン構築の
要請強化

カーボンリサイクルの推進

サーキュラーエコノミーの推進

NEW

日本政府が成長戦略として17の戦略分野を選定

NEW

中東地域における情勢不安

当社にとっての影響

当社のGXビジネス事業機会の増加

- ▶ 水素社会推進法、CCS事業法などの法令整備
- ▶ GI基金活用による脱炭素技術導入機会の増加
- ▶ 製鉄業界など産業界での脱炭素化
- ▶ SAFをはじめとする代替燃料の需要増
- ▶ CO₂回収装置、メタネーション装置の需要増

当社事業との関連性が高く、業績への好影響を期待

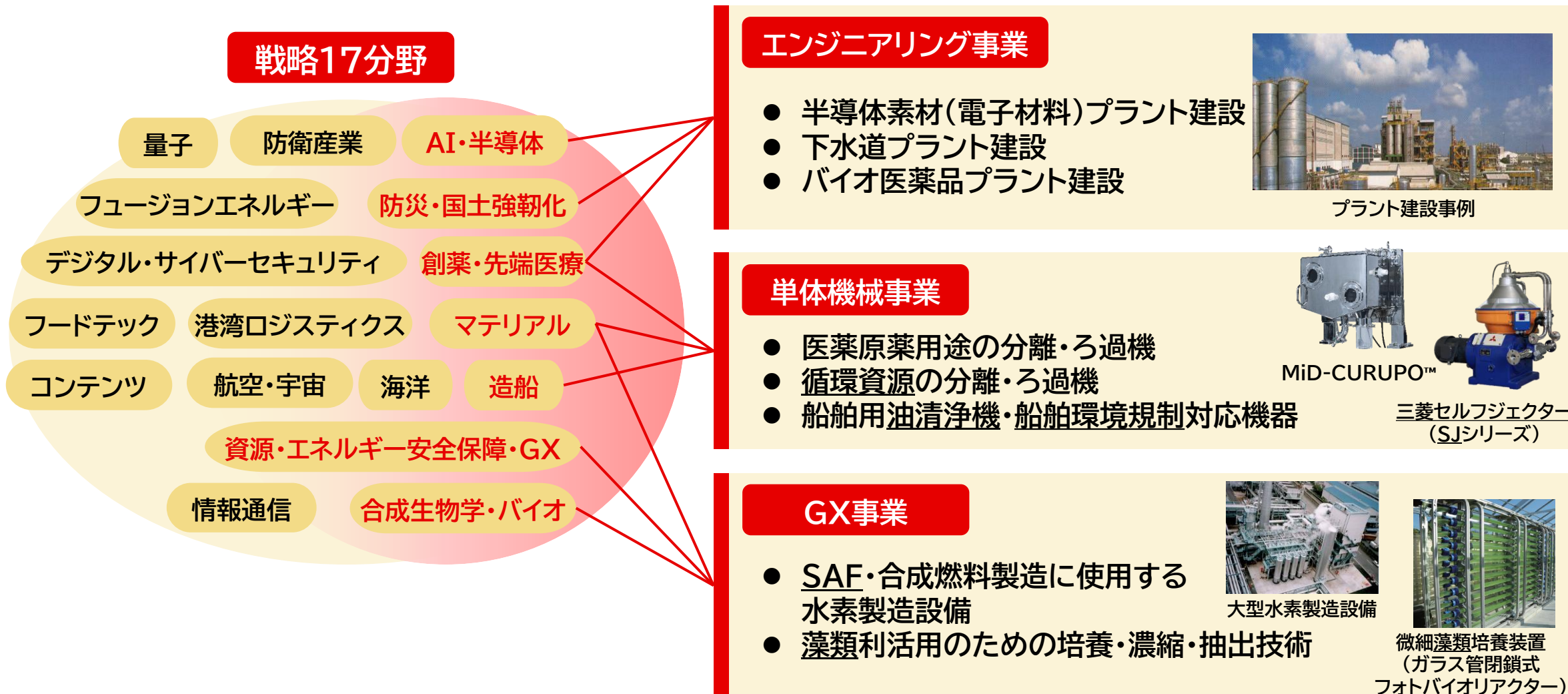
詳細はp7参照

一部資材の入手環境悪化の懸念

詳細はp8参照





日本政府の政策方針と当社の事業領域

● 当社の幅広い事業領域が、日本政府が定めた17の戦略分野のうち様々な分野に合致



中東情勢の影響と業績見通しについて

- 中東地域における情勢不安の継続に伴い、原油・ナフサ不足などを原因に一部の資材価格が高騰し、入手環境が悪化
- 現時点での影響は限定的であり、業績予想への影響は顕在化していないが、動向を引き続き注視

当社における製造・建設工程への影響		受注への影響
<p>資材調達</p> <p>原油・ナフサ由来の資材の出荷数量、納期、価格等に影響</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>ゴム製品</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>シンナー・塗料</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>潤滑油</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>塩ビ・ポリエチレン製品</p> </div> </div>	<p>中東情勢の影響に起因する顧客の設備投資計画の延期・見送りは現状無し</p>	
<p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 調達先の分散化、在庫管理の徹底、代替材料検討などにより、資材の供給不足として現在は特段の影響は出ていない ● コストに占める割合がわずかな資材のため、価格変動による業績への影響は、現在は顕在化していない <div style="text-align: right; border: 2px solid red; border-radius: 50%; padding: 10px; color: white; font-weight: bold;"> 業績への影響を継続的に注視 </div>		
<p>長期化・悪化した場合</p> <p>製造機器の部品・塗料等の不足やエネルギー価格高騰に伴う生産計画の遅れ、プラント建設における工期の長期化、建設コストの増加 など</p> <p>➡ 今後のリスク顕在化への対応を検討中</p>	<p>ケミカルプラント等、原油由来の化学物質を使用する顧客の設備投資計画の延期・見送りなど</p>	

Ⅱ. 2026年3月期通期決算実績

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

 MKK

連結損益計算書

- 売上高は 42.3%増: 前期までに受注した大型工事案件の順調な進捗、船舶向け機器・部品の好調な販売が寄与
- 営業利益は 61.2%増: 販管費が増加(後述)したが、売上高の増加による売上総利益の増加に加え、エンジニアリング事業の完工工事のコスト改善、単体機械事業のアフターサービス部品・工事等が寄与

(単位:百万円)

	2025年3月期 (2024年度)		2026年3月期 (2025年度)					
	実績	売上比	予想(2026年1月修正)		実績	売上比	前期比	
			予想	売上比			増減額	増減率
売上高	59,202	—	88,500	—	84,240	—	+25,038	+42.3%
売上原価	45,995	77.7%	70,700	79.9%	65,976	78.3%	+19,981	+43.4%
販売費及び一般管理費	7,511	12.7%	8,800	9.9%	9,082	10.8%	+1,570	+20.9%
営業利益	5,694	9.6%	9,000	10.2%	9,181	10.9%	+3,486	+61.2%
経常利益	5,626	9.5%	9,100	10.3%	9,462	11.2%	+3,836	+68.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,879	8.2%	6,850	7.7%	7,546	9.0%	+2,667	+54.7%
1株当たり当期純利益(単位:円)	213.79	—	300.76	—	331.34	—	+117.55	+55.0%

*当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。このため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益を算出しております。

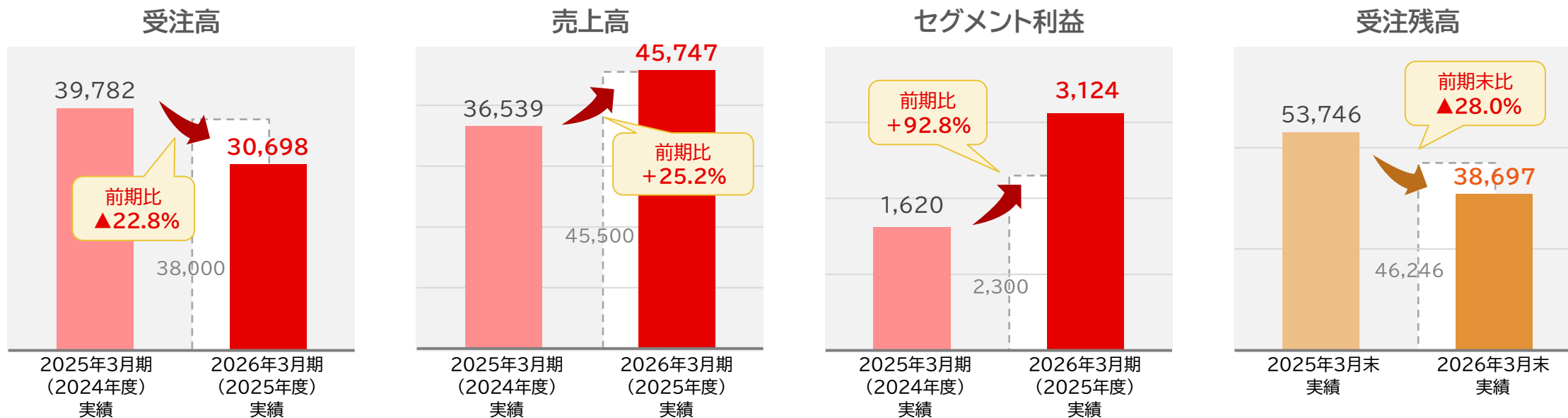
セグメント別の状況① エンジニアリング事業

決算実績のポイント

受注高	> 米国の通商政策をはじめとする地政学リスクの高まり等により顧客の投資計画に一部見直しがあり、計画未達
売上高	> 前期までの受注残高(主に国内ケミカルプラント(半導体素材関連プラント等)、下水処理施設)が寄与し、前期比で増加
セグメント利益	> 売上高増加に伴う売上総利益の増加に加え、完工した工事案件におけるコスト改善、追加工事の獲得が寄与し、前期比で大幅に増加

セグメント別業績推移 (単位:百万円)

■:前期実績 □:中期経営計画 ■:当期実績



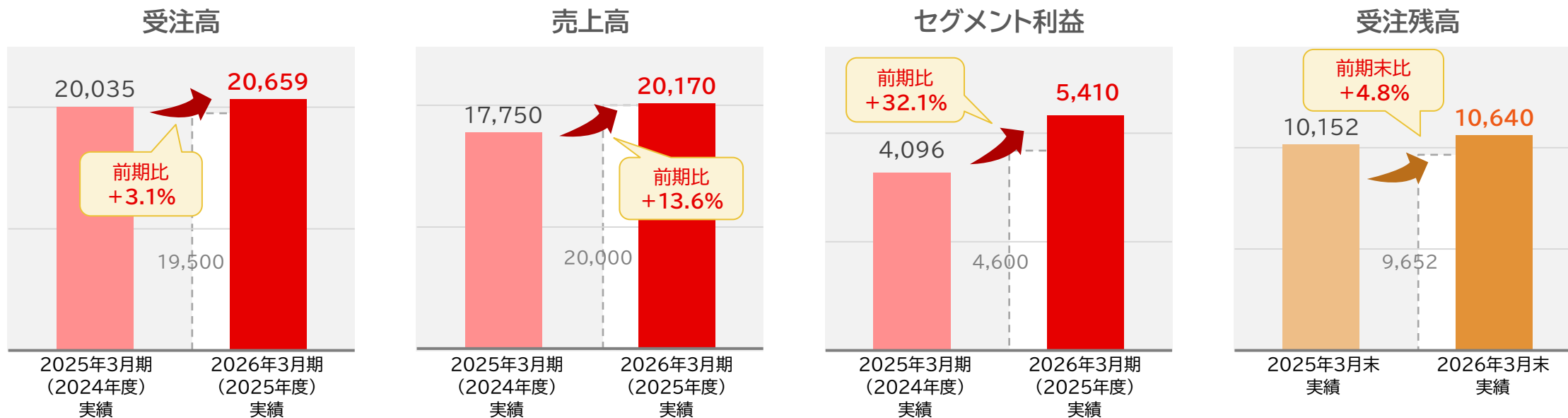
セグメント別の状況② 単体機械事業

決算実績のポイント

受注高	> 好調な造船・海運市況に支えられ、油清浄機の本体および部品、船舶環境規制対応機器の受注は高い水準で推移
売上高	> 油清浄機の本体および部品、船舶環境規制対応機器が寄与し、引き続き増加
セグメント利益	> 売上高の増加による売上総利益の増加に加え、利益率の高いアフターサービス部品・工事の売上高が増加し、引き続き増益

セグメント別業績推移 (単位:百万円)

■:前期実績 □:中期経営計画 ■:当期実績



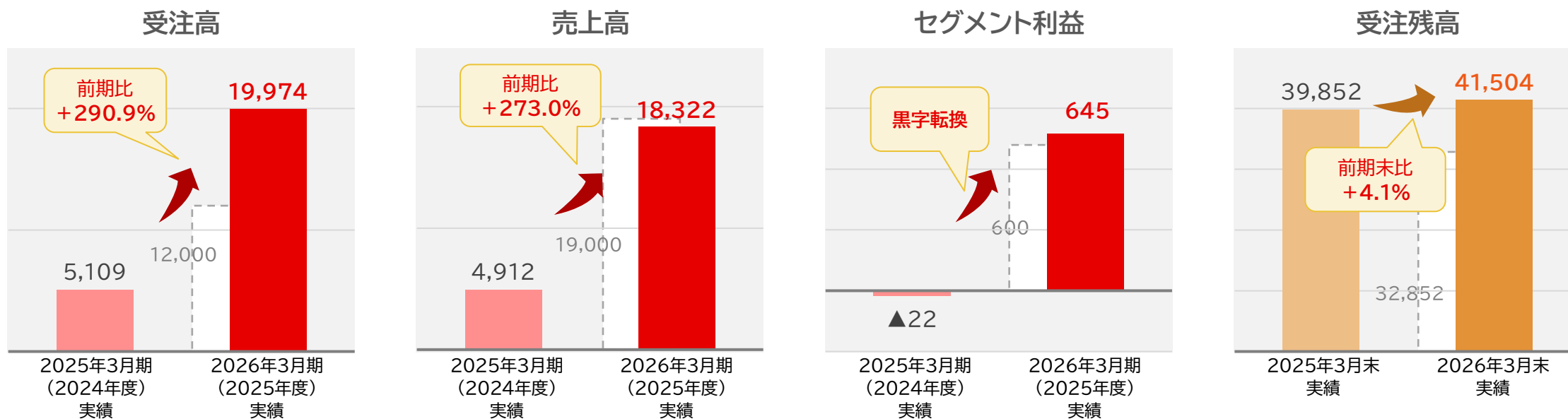
セグメント別の状況③ GX事業

決算実績のポイント

受注高	> 水素利活用等における案件を着実に受注し、前期比・計画比ともに大幅に増加
売上高	> 前期までの受注残高(主に大型水素製造設備)が寄与し、前期比で大幅に増加
セグメント利益	> 売上高増加に伴う売上総利益の増加が販管費の増加を上回り、黒字化を達成

セグメント別業績推移 (単位:百万円)

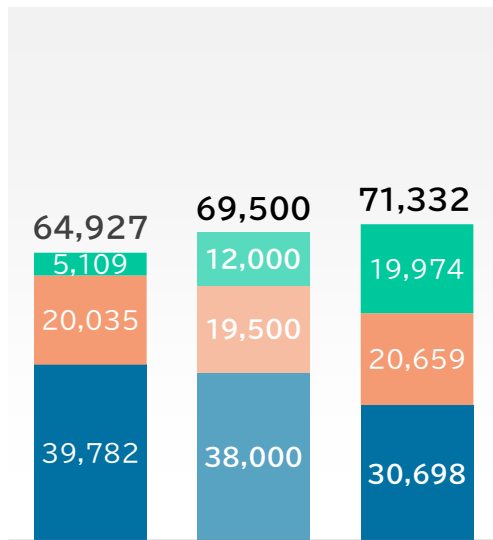
■:前期実績 □:中期経営計画 ■:当期実績



連結業績の前期実績・中期経営計画との比較

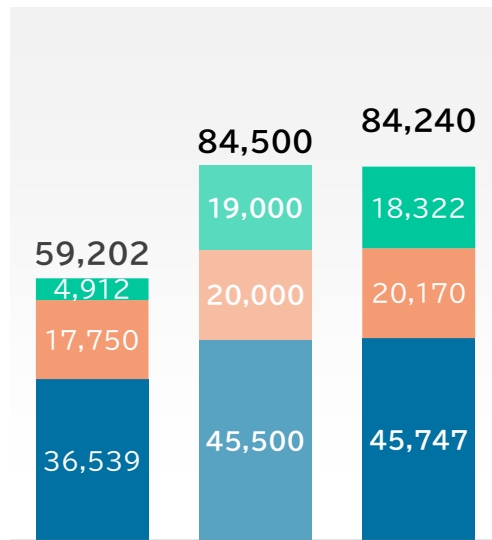


受注高(百万円)



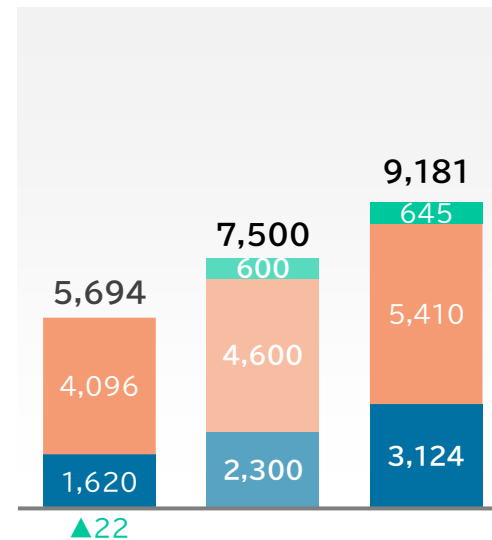
前期実績	当期計画 (中計)	当期実績
25/3期	26/3期	

売上高(百万円)



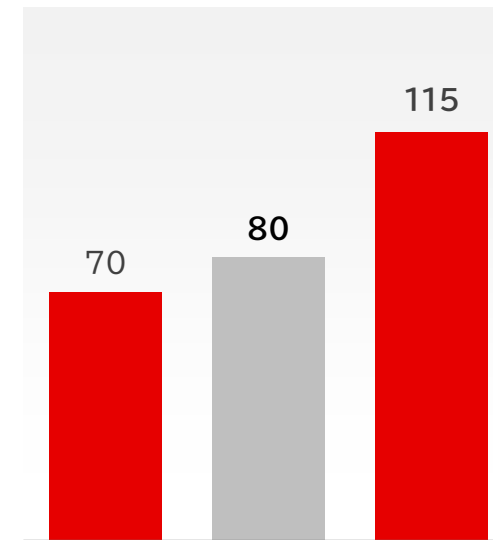
前期実績	当期計画 (中計)	当期実績
25/3期	26/3期	

営業利益(百万円)



前期実績	当期計画 (中計)	当期実績
25/3期	26/3期	

配当金(円)



前期実績	当期計画 (中計)	当期予定
25/3期	26/3期	

■ エンジニアリング事業 ■ 単体機械事業 ■ GX事業

■ 1株当たり年間配当金

- GX事業の受注金額が計画を大きく上回り、エンジニアリング事業の減少をカバー

- 各事業とも概ね計画に沿った売上を計上、前期比で大幅に増加

- すべての事業で計画を達成、全体として計画を大幅に超過達成

- 当期純利益の増益に伴い増配
- 配当性向は35%
(中期経営計画の株主還元方針)

主な販売管理費

- **金額ベースでは 20.9%増:** 給与・賞与の増加に加え、新製品創出に向けた成長投資を拡大し研究開発費が増加、また、企業ブランド戦略活動により広告宣伝費が増加
- **売上高比率では 1.9pt低下:** 売上高販管費率は 12.7% から 10.8% に低下

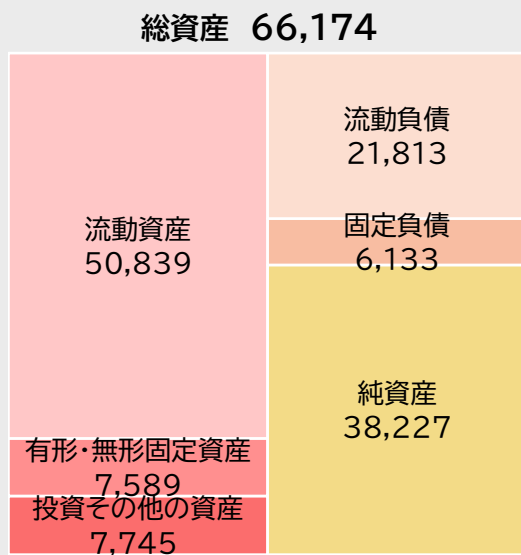
(単位:百万円)

	2025年3月期 (2024年度)		2026年3月期 (2025年度)			
	実績	売上比	実績	売上比	前期比	
					増減額	増減率
給与・賞与	2,674	4.5%	3,037	3.6%	+ 362	+ 13.5%
見積設計費	851	1.4%	899	1.1%	+ 47	+ 5.6%
研究開発費	510	0.9%	815	1.0%	+ 305	+ 59.8%
販売手数料	273	0.5%	307	0.4%	+ 34	+ 12.4%
広告宣伝費	178	0.3%	271	0.3%	+ 93	+ 52.3%
減価償却費	163	0.3%	265	0.3%	+ 102	+ 62.9%
その他	2,858	4.8%	3,484	4.1%	+ 626	+ 21.9%
合計	7,511	12.7%	9,082	10.8%	+ 1,570	+ 20.9%

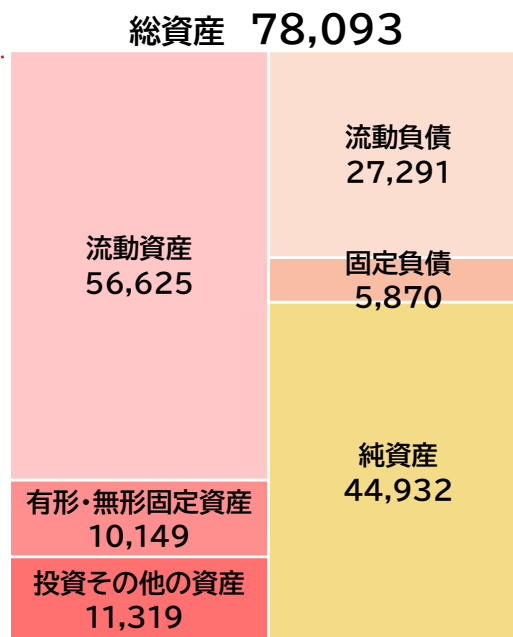
連結貸借対照表

- 総資産は大幅に増加： 売掛債権、川崎製作所の再編に関する建設仮勘定等が増加
- 負債は増加： 契約負債が減少したが、買掛債務、借入金が増加し、全体として増加
- 自己資本比率は横ばい： 総資産の増加と純資産の増加が相殺し、前期比横ばい(前期末57.8%→当期末57.5%)

2025年3月末



2026年3月末

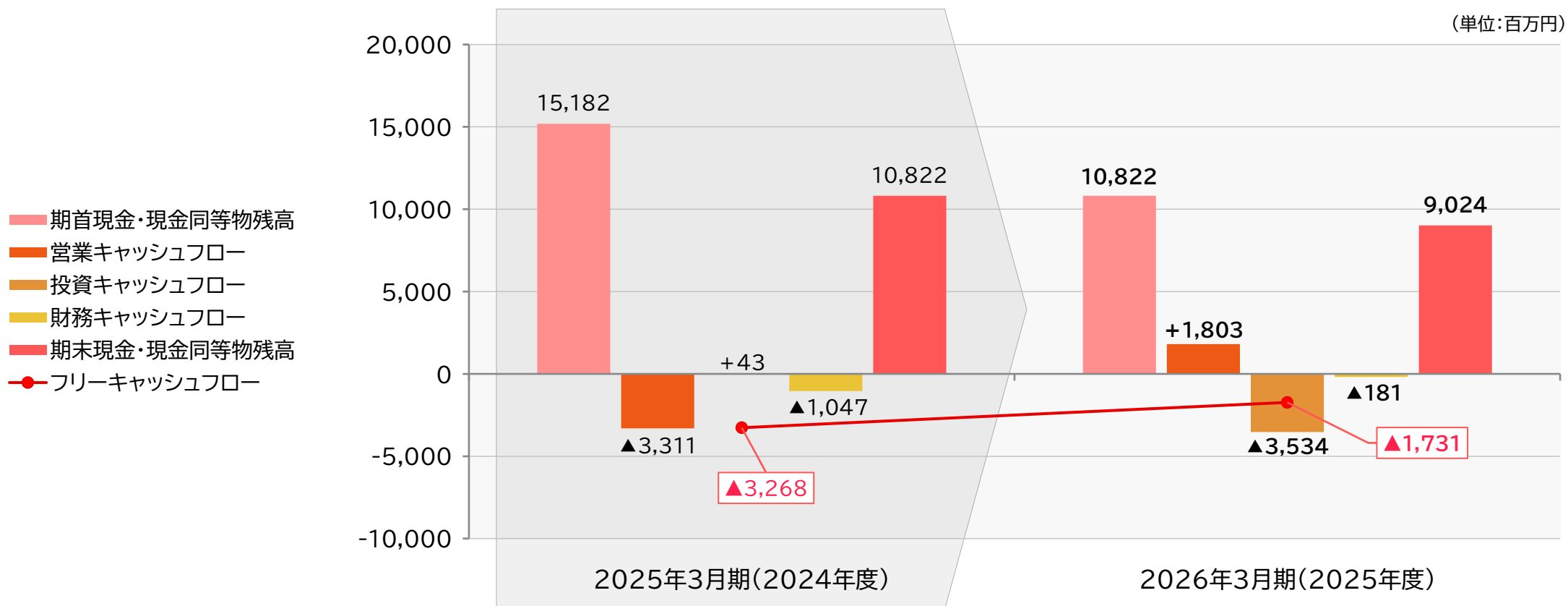


(単位:百万円)

前期末比	
流動資産	+5,786
売掛金	+3,174
契約資産	+3,620
有形・無形固定資産	+2,559
有形固定資産 (うち建設仮勘定)	+2,718 (+3,208)
投資その他の資産	+3,573
投資有価証券	+2,324
退職給付に係る資産	+1,156
流動負債	+5,477
契約負債	▲2,514
買掛金	+3,039
短期借入金	+3,500
固定負債	▲263
純資産	+6,705
利益剰余金	+5,326

連結キャッシュ・フロー計算書

- 営業CFはプラス: 売掛債権の増加によるキャッシュフローの減少を増益で補い、営業キャッシュ・フローはプラス
- 投資CFはマイナス: 主に川崎製作所の再編に伴う支出に使用
- フリーCFはマイナス: 営業キャッシュ・フローの改善により、前期比でマイナスが縮小



Ⅲ. 2027年3月期通期業績予想

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

連結業績予想

- 売上高は 5.0%減: 複数の大型案件が上期に完工するため前期比で減少するが、エンジニアリング・GX事業の高水準な受注残高、船舶向け機器・部品の好調な販売が寄与し高水準を維持、中計以上の水準を見込む
- 営業利益は 4.2%減: 売上高の減少による売上総利益の減少が影響、一方、営業利益率は改善を見込む
- 当期純利益は 9.2%減: 経常利益の減少により当期純利益も減少

(単位:百万円)

	2026年3月期 (2025年度)		2027年3月期 (2026年度)				※2026年5月予想	
	通期実績	売上比	上期予想	売上比	通期予想	売上比	前期比	
							増減額	増減率
売上高	84,240	—	43,000	—	80,000	—	▲4,240	▲5.0%
売上原価	65,976	78.3%	34,300	79.8%	62,000	77.5%	▲3,976	▲6.0%
販売費及び一般管理費	9,082	10.8%	4,600	10.7%	9,200	11.5%	+117	+1.3%
営業利益	9,181	10.9%	4,100	9.5%	8,800	11.0%	▲381	▲4.2%
経常利益	9,462	11.2%	4,200	9.8%	8,900	11.1%	▲562	▲5.9%
親会社株主に帰属する当期(中間)純利益	7,546	9.0%	3,600	8.4%	6,850	8.6%	▲696	▲9.2%
1株当たり当期(中間)純利益(単位:円)	331.34	—	158.05	—	300.74	—	▲30.6	▲9.2%

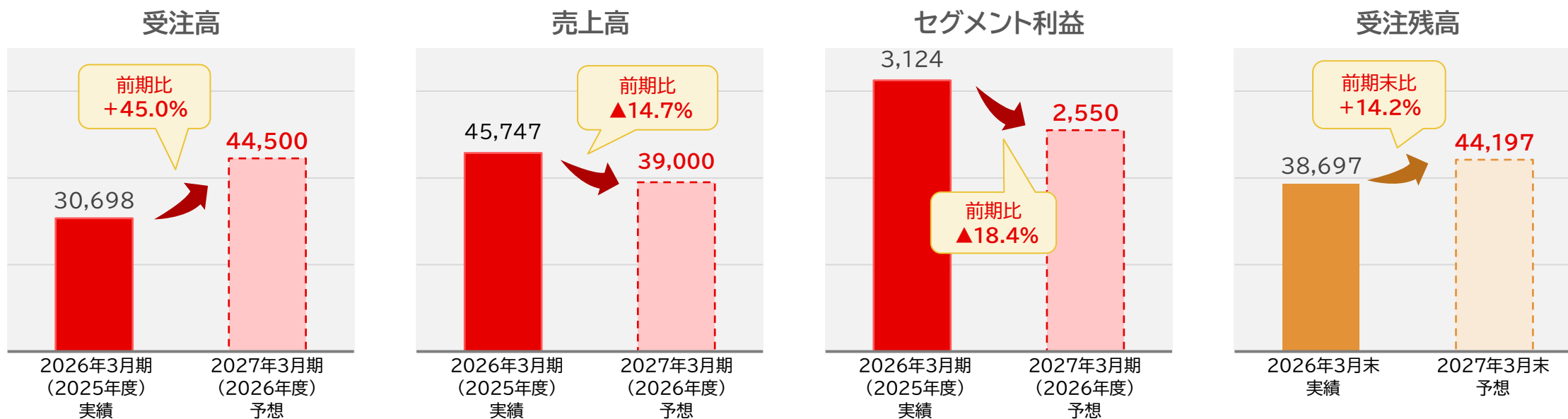
セグメント別業績予想① エンジニアリング事業

業績予想のポイント

受注高	> 需要が旺盛な半導体素材関連プラントやケミカルプラントなどの受注により、前期比で大幅な増加を見込む
売上高	> 複数の大型案件が上期に完工するため前期比で減少するものの、高水準を維持の見込み
セグメント利益	> 売上高の減少に伴う売上総利益の減少により、減益の見込み

セグメント別業績予想 (単位:百万円)

■:前期実績 □:当期予想



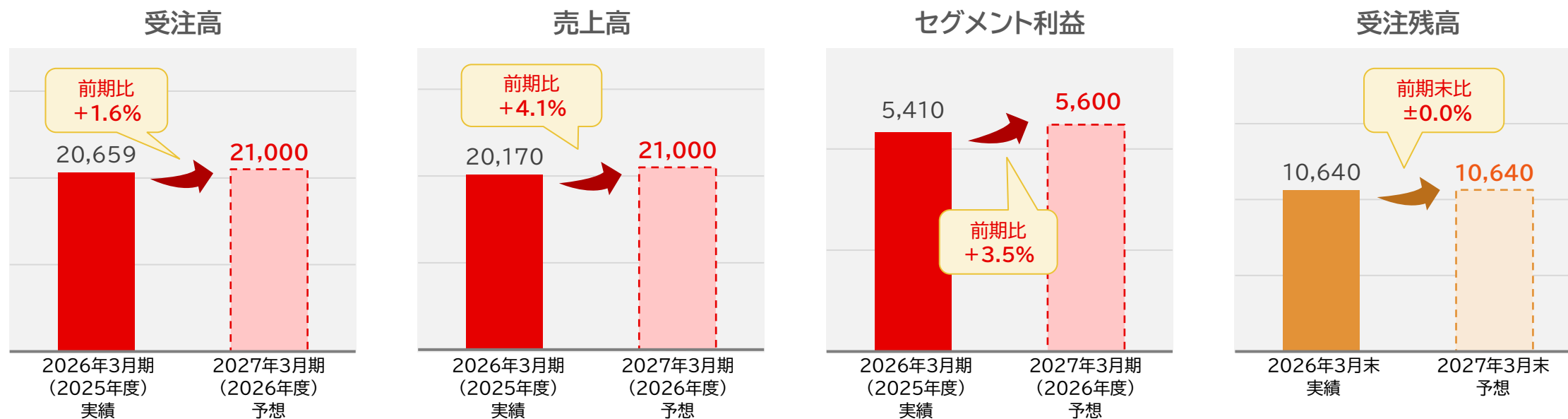
セグメント別業績予想② 単体機械事業

業績予想のポイント

受注高	> 前期に引き続き、好調な造船・海運市況に支えられ高水準を維持の見込み
売上高	> 油清浄機の本体および部品、船舶環境規制対応機器の受注が寄与し、高水準で推移の見込み
セグメント利益	> 売上高の増加に伴う売上総利益の増加により微増

セグメント別業績予想 (単位:百万円)

■:前期実績 □:当期予想



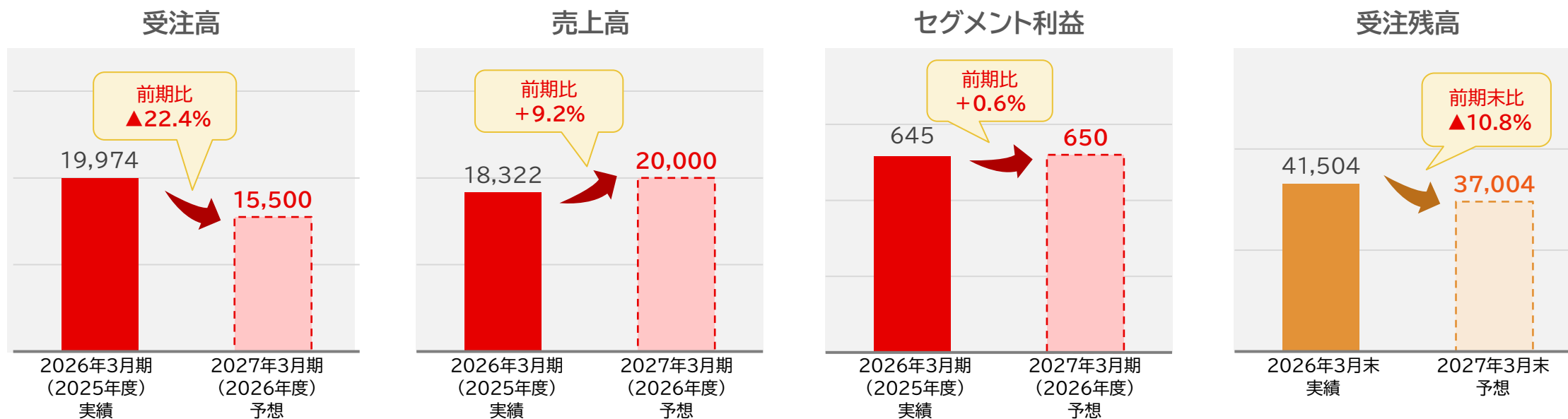
セグメント別業績予想③ GX事業

業績予想のポイント

受注高	> 前期比で減少するものの、水素利活用やバイオガス案件等で高水準を維持する見込み
売上高	> 前期までの豊富な受注残高が寄与し、増加を見込む
セグメント利益	> 前期並みのセグメント利益を確保の見込み

セグメント別業績予想 (単位:百万円)

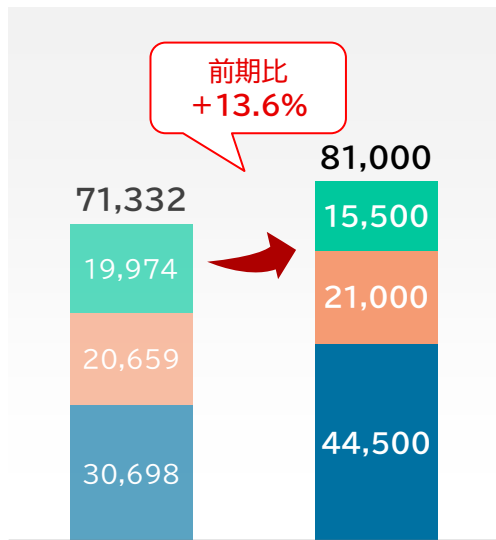
■:前期実績 □:当期予想



連結業績予想の前期実績との比較

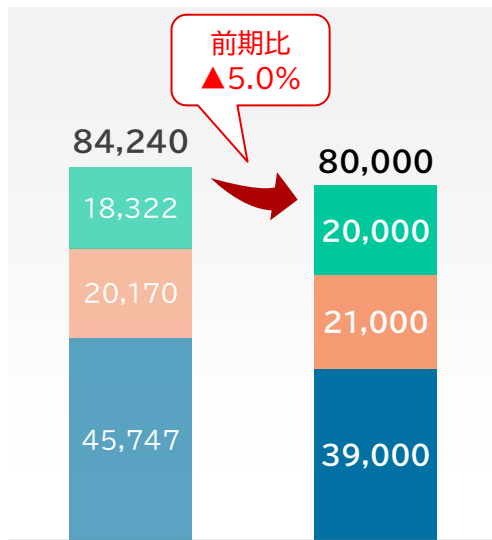


受注高(百万円)



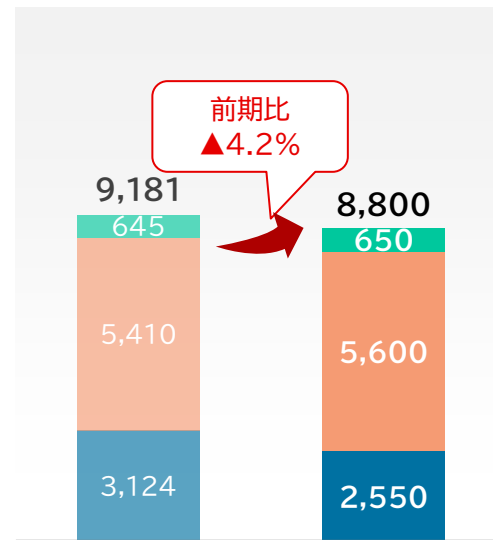
実績	予想
26/3期	27/3期

売上高(百万円)



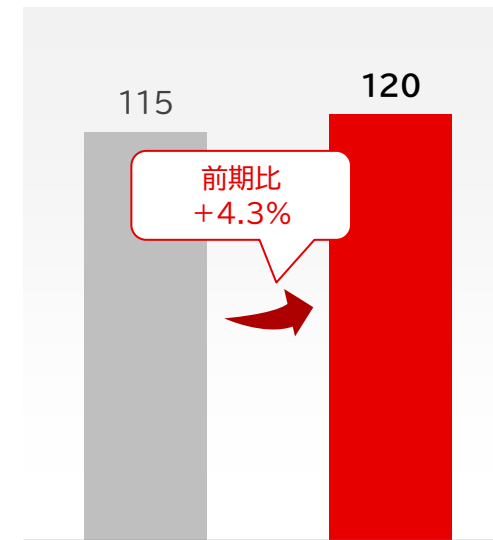
実績	予想
26/3期	27/3期

営業利益(百万円)



実績	予想
26/3期	27/3期

配当金(円)



予定	予想
26/3期	27/3期

■ エンジニアリング事業 ■ 単体機械事業 ■ GX事業

■ 1株当たり年間配当金

- エンジニアリング事業における増加により、前期比増加の見込み

- 好調な単体機械事業・GX事業が、エンジニアリング事業における減少を下支えし、前期比微減にとどまる見込み

- 単体機械事業における増益が、エンジニアリング事業における減益を一部吸収し、前期比微減にとどまる見込み

- 当期純利益予想の中計比増益、および中計の株主還元方針に沿って増配
※配当性向：26/3期35% → 27/3期40%

IV. 中期経営計画(2025年度～2027年度) 1年目の進捗状況

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

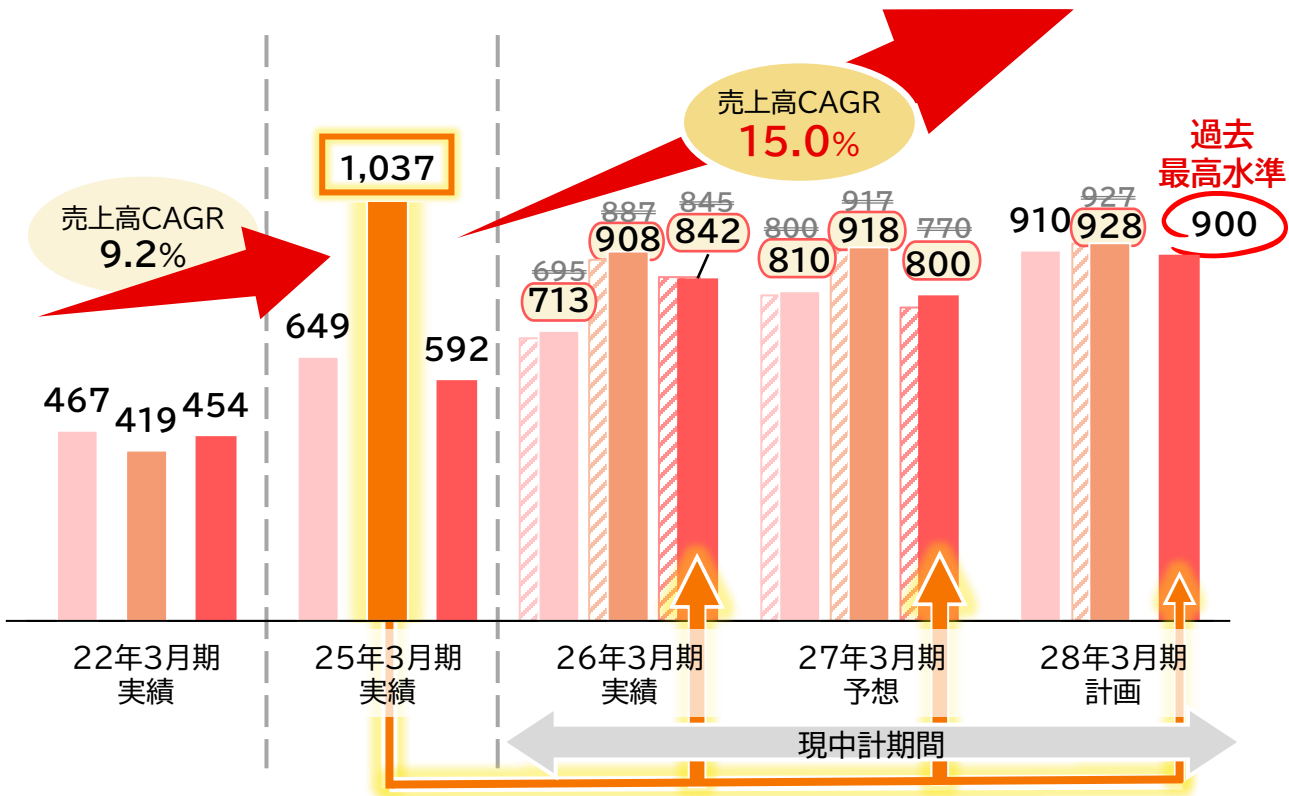
MKK

中期経営計画 1年目の進捗状況 1)数値計画

- 2026年3月期は、受注高・売上高・営業利益ともに概ね中計1年目の計画値を達成
- 2027年3月期も計画を上回る予想

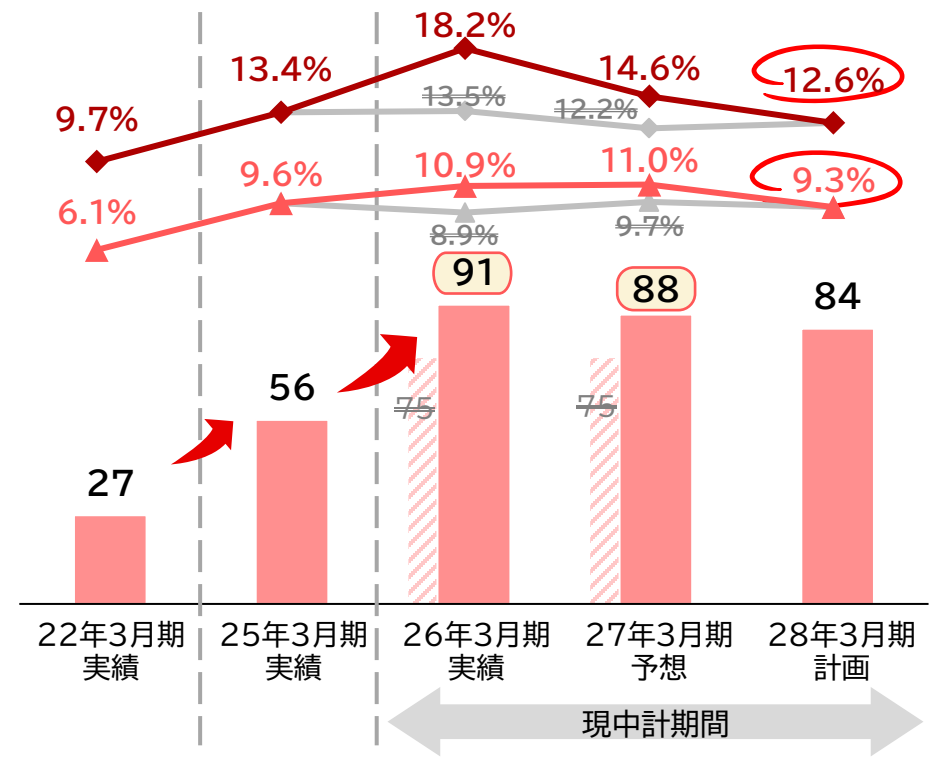
現中計期間での事業規模の目標値 (単位:億円)

■ 受注高 ■ 受注残高 ■ 売上高 ※斜線棒グラフは中期経営計画



現中計期間での収益性指標の目標値 (単位:億円)

◆ ROE ▲ 営業利益率 ■ 営業利益 ※斜線棒/灰色線グラフは中期経営計画

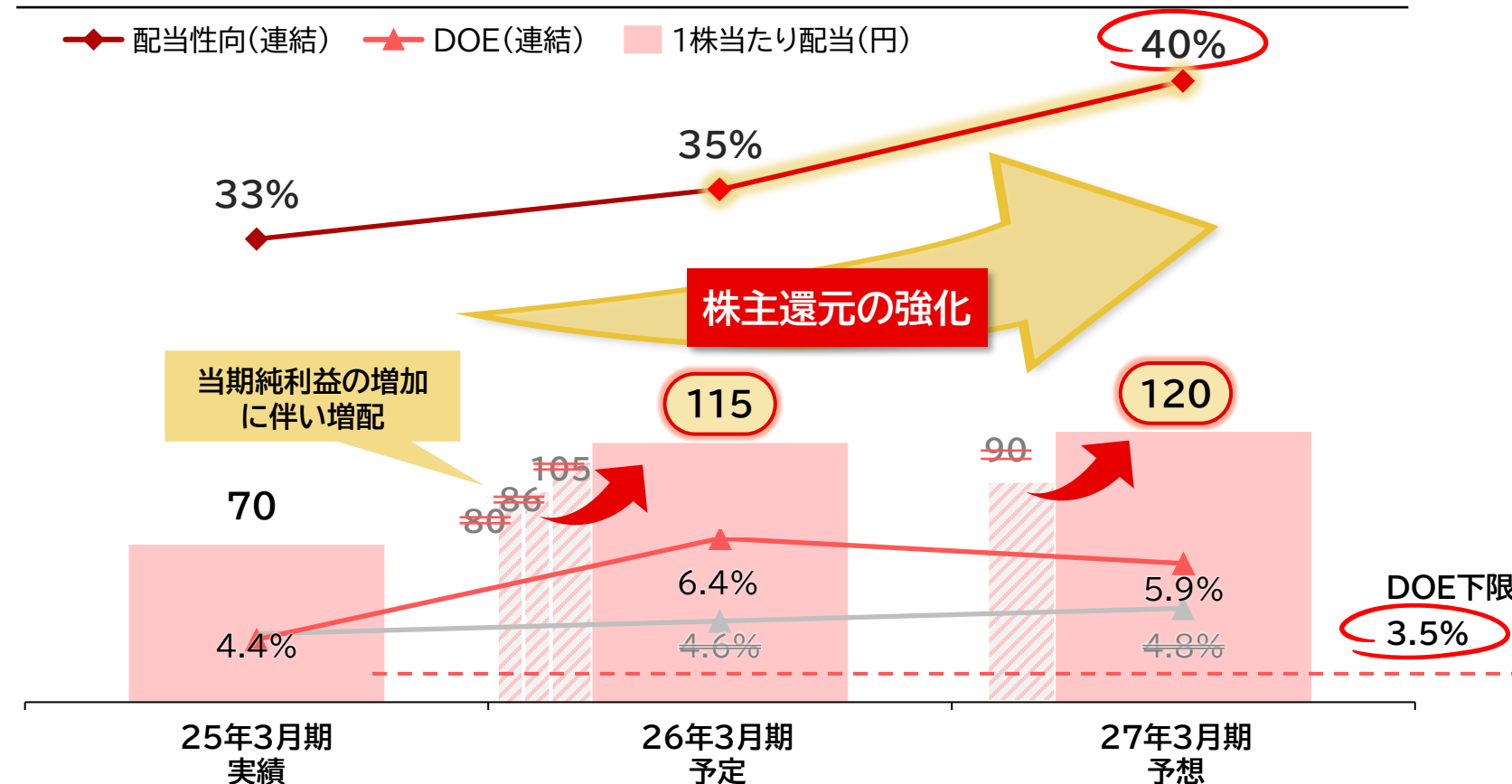


現中計期間では、前中計期間より売上成長のペースが加速、利益率もさらなる改善を狙う

中期経営計画 1年目の進捗状況 2)株主還元方針

- 2026年3月期は計画どおり配当性向35%を予定、当期純利益の増加もあり、115円への増配を予定
- 2027年3月期も計画どおり配当性向40%を遵守、120円へと増配を計画

株主還元の実績と現中計期間の計画



株主還元強化の方針

➤ 26年3月期は、当期純利益の増加に加えて、中期経営計画の株主還元方針に沿って増配

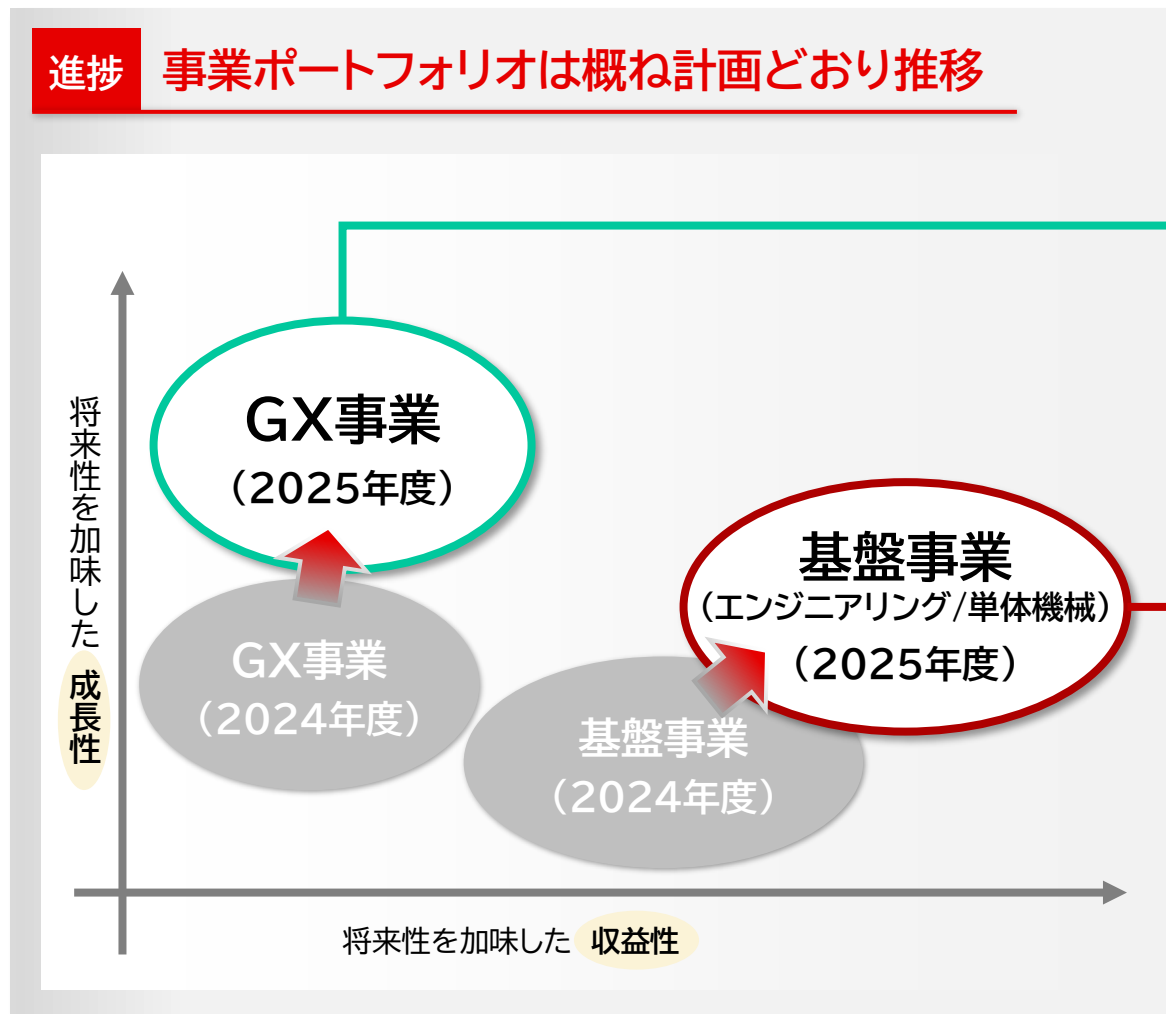
➤ 当期の配当性向は40%

35% → **40%**
2026年3月期 2027年3月期

➤ 配当下限(DOE)により、安定配当を維持

中期経営計画 1年目の進捗状況 骨子①事業ポートフォリオの進化

- GX事業は成長性、基盤事業は収益性が向上、中計方針に沿った成果を実現



GX事業: 売上成長

- 受注高・売上高は前期比大幅に増加

GX事業の受注高・売上高推移

GX事業	25/3期	26/3期	増減率
受注高	51億円	199億円	+290.9%
売上高	49億円	183億円	+273.0%

基盤事業: 収益性向上

- エンジニアリング事業、単体機械事業とも営業利益率が向上

エンジニアリング事業・単体機械事業の営業利益率推移

営業利益率	25/3期	26/3期	増減
エンジニアリング事業	4.4%	6.8%	+2.4pt
単体機械事業	23.1%	26.8%	+3.7pt

中期経営計画 1年目の進捗状況 骨子②資本コスト・株価を意識した経営の確立

- 中計に沿った事業戦略・経営戦略の着実な実行により、株価・PBRおよび株式流動性が大幅に向上
- 成長投資の着実な実行や情報発信強化も企業価値向上に寄与

進捗 本中計発表後、株価・PBR、株式流動性が大幅に向上 ◀ 中計の着実な実行が寄与

指標	25/03/31 (前年度末月)	25/05/30 (中計発表月)	25/10/31 (中間決算発表月)	26/03/31 (当年度末月)	26/05/29 (中計発表後1年経過月)
株価	1,355 円* PBR:0.8倍	1,937 円	3,295 円	2,914 円	3,590 円
出来高※1日平均	2024年度平均: 141 千株/日*	4/1 株式分割	2025年度平均: 320 千株/日		2026年度平均: 262 千株/日

※当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。記載の株価および出来高は、その株式分割を織り込んだ数値です。

成長投資の実行

- R&DやM&Aなど、事業拡大につながる投資を積極的に実行、順調に進捗

現中計の
「成長投資」

研究開発

1年目実績: 8.1億円



M&A・アライアンス、出資

1年目実績: 3件

2025年度
実績

- 事業性や事業化時期(Quick-Win)等を検討し積極的に投資
例) 製造水素のブルー水素化(CO₂回収)

- シナジーが見込める3件へ投資
1) MKK東北が日誠工業の株式を取得
2) Japan Hydrogen Fund, L.P.へ出資
3) 日本水素エネルギーへ出資

成長期待を高める情報発信

- IR/SR活動を強化
 - IR面談の実施件数が倍増(前期比+80%)
 - 日経IRフェアや投資家向けメディアに初展開、個人投資家向け施策も強化
 - SR:大株主エンゲージメント面談を初めて実施
- 広報活動を強化
 - テレビ番組などメディアへの露出を開始
 - MKK PROJECT による戦略的広報活動の推進

その他
本骨子の
進捗

中期経営計画 1年目の進捗状況 骨子③人的資本・技術資本の強化

- 人的資本の強化に向け、採用・育成や従業員エンゲージメント強化施策を展開、人員計画が着実に進捗
- 技術資本の強化施策として、川崎製作所の再編等、モノづくり機能の最大化を目指す施策が進捗

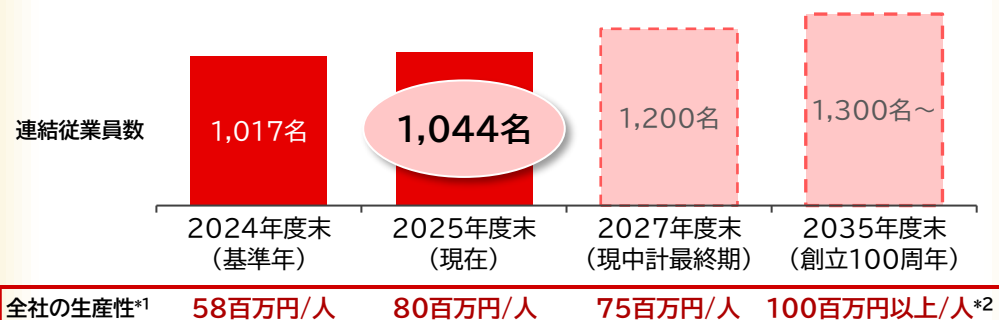
人的資本戦略

■ 人材の育成・獲得、エンゲージメント向上に係る施策を強化

- i) 新卒・中途採用の強化 → 採用者数が増加
- ii) 教育研修のプログラムやインフラを強化 → 研修実施時間が増加
- iii) 働き方改革のさらなる推進 → 多様性確保、仕事と家庭の両立に寄与
- iv) 社長によるタウンホールミーティングの継続 → エンゲージメントの向上に寄与
- v) 充実した従業員持株会制度

■ 人員計画は着実に進捗

中期経営計画における人員計画



*1 全社の生産性は、一人当たり売上高として計算

*2 2026年5月の経営ビジョンアップデート後の展望計数にて計算

モノづくり戦略

■ 本社・川崎製作所の再編に注力

- 製品開発・生産活動のマザー工場とすべく、必要十分な設備・システムの検討を継続、モノづくり機能の最大化に資する施策が進展



2026年4月の状況:鉄筋の組立工程

■ 工場の有機的連携の推進

- 新たに生産戦略企画室を立ち上げ、工場間で柔軟に生産活動を連携できる体制構築に向けた取り組みを推進

DX戦略

- 業務の高度化・効率化に資するAIの導入を複数件実施
…従業員が高付加価値な業務に注力できる環境整備を推進、営業利益率のさらなる増大に資す
- 経済産業省よりDX認定事業者にて認定
- 生産活動のDX化(工場DX)に向け、DXパートナーを選定中



中期経営計画 1年目の進捗状況 骨子④経営ガバナンスの透明性向上

- マテリアリティに係る取り組みは概ね順調に進捗
- 労働安全衛生に関して、再発を防止する仕組みづくりに取り組み中

サステナビリティ推進		2025年度 進捗状況		
マテリアリティ	KPI	○/×	実績	主な取り組み状況
1 4つの戦略的事業領域に関連する社会価値の創造	a) GX事業の3年目売上高: 230億円以上 b) M&A/出資の実行: 1件以上	a) ○ b) ○	183億円 1件	● 休業災害が1件発生 → 再発防止の仕組みづくりに取り組み中
2 顧客との信頼関係強化(品質・安全)	a) 4日以上休業災害件数 ※1: 0件 b) 品質(損失)コストの対売上高比率 ※2: 前中計期間比 低減	a) × b) ○	1件 低減を実現	
3 多様性を重視した人材開発・活躍推進	a) エンゲージメント調査の平均点 ※3: 3ポイント以上向上 b) 女性従業員比率 ※3: 20%以上	a) ○ b) ○	+2pt(66pt) 15.5%	● 社長が全従業員と対話する「タウンホールミーティング」を開催 → 従業員の声を経営へ取り込むことで、エンゲージメント推進力向上に資する
4 事業活動における環境負荷の低減	a) Scope1,2排出量 ※1: 2030年目標(1,417tCO₂)以下水準の維持 b) Scope3排出量: 算定・開示	a) ○ b) ○	959tCO₂(推計) 5カテゴリ開示 3カテゴリ算定中	● サステナブル調達推進のため、主要サプライヤーへのCSRアンケートによりESG課題を特定し、フォローアップを実施 → 取り組み体制が確立、2026年度、第2回実施が進行中
5 モノづくり戦略の確立と推進	a) 工場DX: 川崎製作所をはじめとした グループ内各工場への実装 b) 資材調達リスク管理: サプライチェーンマネジメントの実施	a) ○ b) ○	パートナー選定中 第1回を実施	
6 コーポレートガバナンスの強化	ガバナンス機能の発揮により、KPI実現をフォローアップ		月次でKPIをモニタリング	

※1 本中計期間内すべての期間における目標 ※2 前中計期間3年間平均に対する、本中計期間3年間平均の目標 ※3 前中計期間最終年度(2024年度)に対する、本中計期間最終年度(2027年度)の目標

油清浄機「三菱セルフジェクター(SJ)」シリーズの用途開発

● 当社のトップシェア製品の一つであるSJシリーズの用途開発を進め、GX事業拡大を促進

SAF製造

GX



技術

廃食油を原料としたSAF(持続可能な航空燃料)を製造するための、**不純物の除去**

事例

国内初となるSAF大規模生産の実証事業向けに納入(2025年からSAF供給開始)

微細藻類の濃縮

GX



技術

微細藻類を利活用するための処理として、培養液中に漂う**微細藻類を濃縮**



CO₂

を吸収して成長



微細藻類



濃縮



油脂など

化石燃料にかわる
新たなバイオマス資源

- 医薬品
- 化粧品原料
- バイオ燃料 など

新たに可変インペラを搭載することにより、**培養液から微細藻類濃縮液を効率よく回収**

事例

2026年、培養液中の微細藻類濃縮用として、**可変インペラ**を搭載した製品を受注

原料の不純物除去



三菱セルフジェクター (SJシリーズ)

必要な成分の回収



船舶用 油清浄機

技術

船舶の燃料油・潤滑油の清浄

トップシェアを確立

- 国内:90%以上
- 世界:50%以上

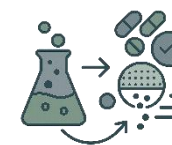
*シェアは自社調べ

陸上用 遠心分離機

技術

微粒子の分級・濃縮

- 化学/医薬/食品工業の分野での分離
- 動物油脂の回収
- 金属粉、顔料、樹脂等の分級・濃縮 など



当社トップシェア製品の近況

トピックス

主な実績・取り組み状況

主な報告セグメント

水素製造装置



小型オンサイト水素製造装置「HyGeia-A」

- 大型及び中型の水素製造設備の受注を複数件獲得
- オンサイト水素製造装置「HyGeia」シリーズの出荷実績は堅調に推移
 - 半導体、電子材料、カーボンニュートラル向けが中心

HyGeiaシリーズの出荷基数推移			
23年3月期	24年3月期	25年3月期	26年3月期
2基	6基	11基	4基

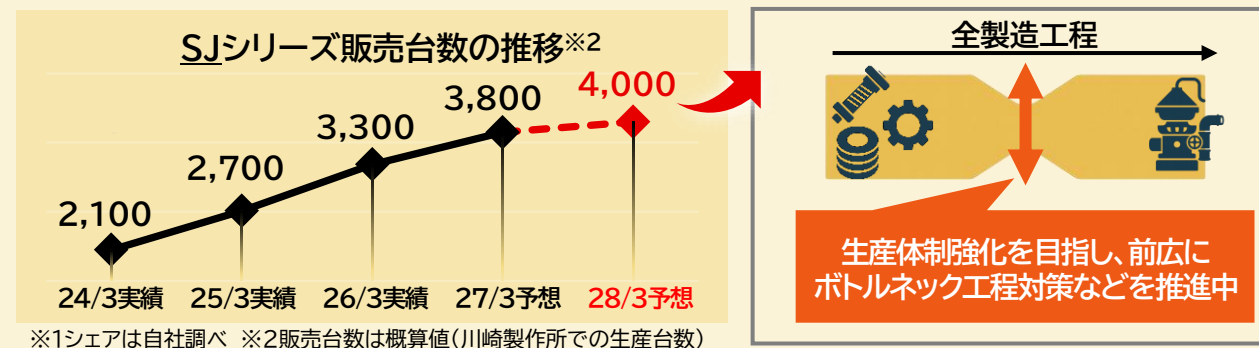
- GX事業
- エンジニアリング事業

油清浄機



三菱セルフジェクター(SJ)シリーズ

- 受注が好調
 - 新造船需要は引き続き好調、今後も船舶向け燃料油・潤滑油処理用途の需要は継続する見通し
- 現在のシェア(国内90%、世界50%)^{※1}のさらなる拡大に向け、中国を中心に戦略を強化
 - SJ工場の製造キャパシティ(最大5,000台)を最大限に活用することで増産
 - …前広かつ計画的に、生産体制の強化(ボトルネック工程対策など)に取り組み中



- GX事業
- 単体機械事業

原薬・電子材料用のベンチスケール固液分離機を拡充

- iFactory®に適応可能な製品を拡充し、原薬・電子材料の製造プロセスでの省力・省エネ化へアプローチ、顧客の様々なニーズへの対応を目指す



高砂ケミカル掛川工場に構築された実証プラント

iFactory®とは

従来の
バッチ式製造法



連続生産へ

- ✓ **省エネルギー化**
…従来比85%の省エネルギー効果 (ろ過・乾燥工程において)
- ✓ **廃棄物量の削減**
…必要な製品を必要な分量だけ生産することが可能に
- ✓ **多様な製品に対応可能**
…モジュールの再構成により、多様な製造プロセスに対応可能

適用可能

ラインナップの拡充

連続回転ろ過機 CURUPO®

- 密閉性に優れたケーシング内でろ過からケーキ剥離まで一連のろ過サイクルを切れ目なく、自動で行うことができる

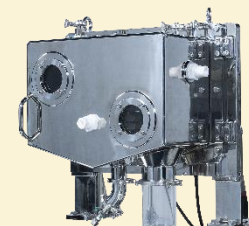
回転式セラミック膜ろ過機 DyF®

- 精密ろ過、限外ろ過、ナノろ過が可能
- ナノレベルの粒子を含むスラリーにも対応可能

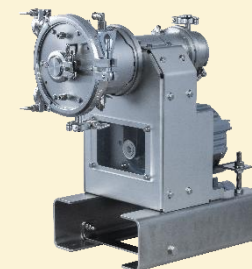
小型化

機内残留物を最小化
異物混入のリスクを低減
(機内洗浄性と操作性を向上)

原薬・電子材料の製造プロセスへの適用を想定した設計



MiD-CURUPO™



DyF-ap™

原料の性質に合わせて使い分けることで、顧客の様々なニーズに対応可能

V. 三菱化工機グループ2050経営ビジョンの アップデート

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

三菱化工機グループ2050経営ビジョン 内容の一部アップデートについて

連結売上高1,000億円への到達時期を2029年度へと6年前倒し、2035年度の売上高を1,200~1,400億円へ上方修正

●アップデートの目的

- ▶ 当社の長期的な成長展望に関するメッセージを的確な内容に維持するため

●アップデートのポイント

- ▶ 2050年を見据えた経営ビジョンのマイルストーンとした2035年度の事業規模等に関するアスピレーション計数(展望計数)を、前倒しならびに上方修正するもの

項目	2021年策定時	今回アップデート後
2029年度 連結業績	(設定なし)	売上高1,000億円 うちGX事業3割程度 営業利益率10%程度
2035年度 連結業績	売上高1,000億円 うち新規事業5~6割 営業利益率7~8%	売上高1,200~1,400億円 うちGX事業4~5割 営業利益率10%程度

前倒し
上方修正

- ▶ 上記計数面以外の変更は無し

●アップデートの背景

- ▶ 2021年以降、当社事業環境の構造的変化、ならびに経営戦略の進展により、事業規模が当時想定以上のペースで伸長・底上げされる一方、ビジョン実現への道筋も、前倒しでより明確になってきたとの認識
- ▶ これを受けて、「創立100周年の2035年度に売上高1,000億円を目指す」としたアスピレーション計数の見直しが適切と判断

①当社を取り巻く事業環境の構造的変化の例

- ✓ 国内外の物価上昇等を背景に、EPC案件※1の単価が大きく上昇
- ✓ コロナ禍収束後、世界の海上輸送量の増加基調が回復
- ✓ 本邦の脱炭素社会構築に関し、関連法整備も進み当社ビジネス機会が増加

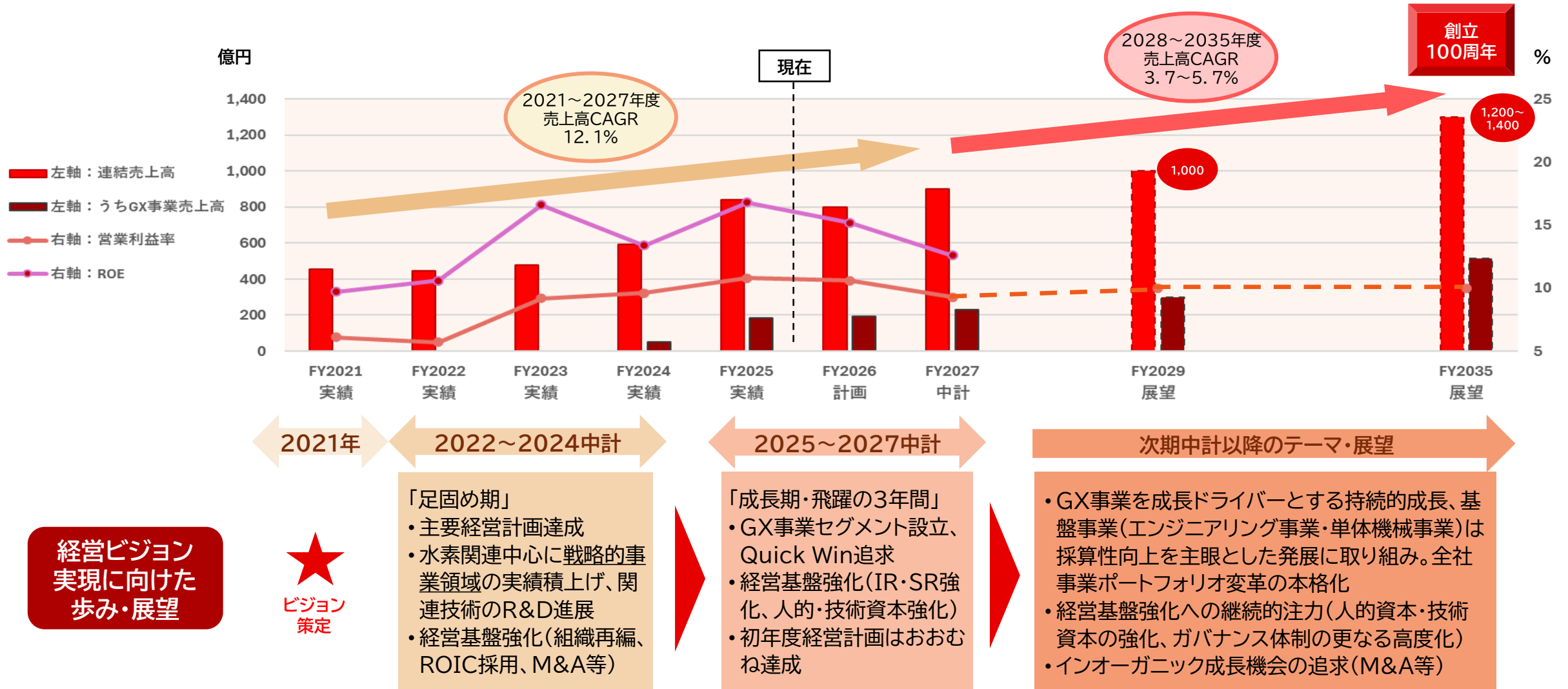
②当社経営戦略・事業戦略の主な進展

- ✓ 経営ビジョン実現の「足固め期」と位置付けた前中計では主要目標を達成
- ✓ 経営ビジョン実現の「成長期」と位置付けた今中計では、GX事業を立ち上げ成長事業を明確化。初年度目標をおおむね達成
- ✓ 単体機械事業において、当社油清浄機の世界シェアは30%台から50%程度へと伸長※2。また船舶環境規制対応機器ビジネスの本格寄与開始

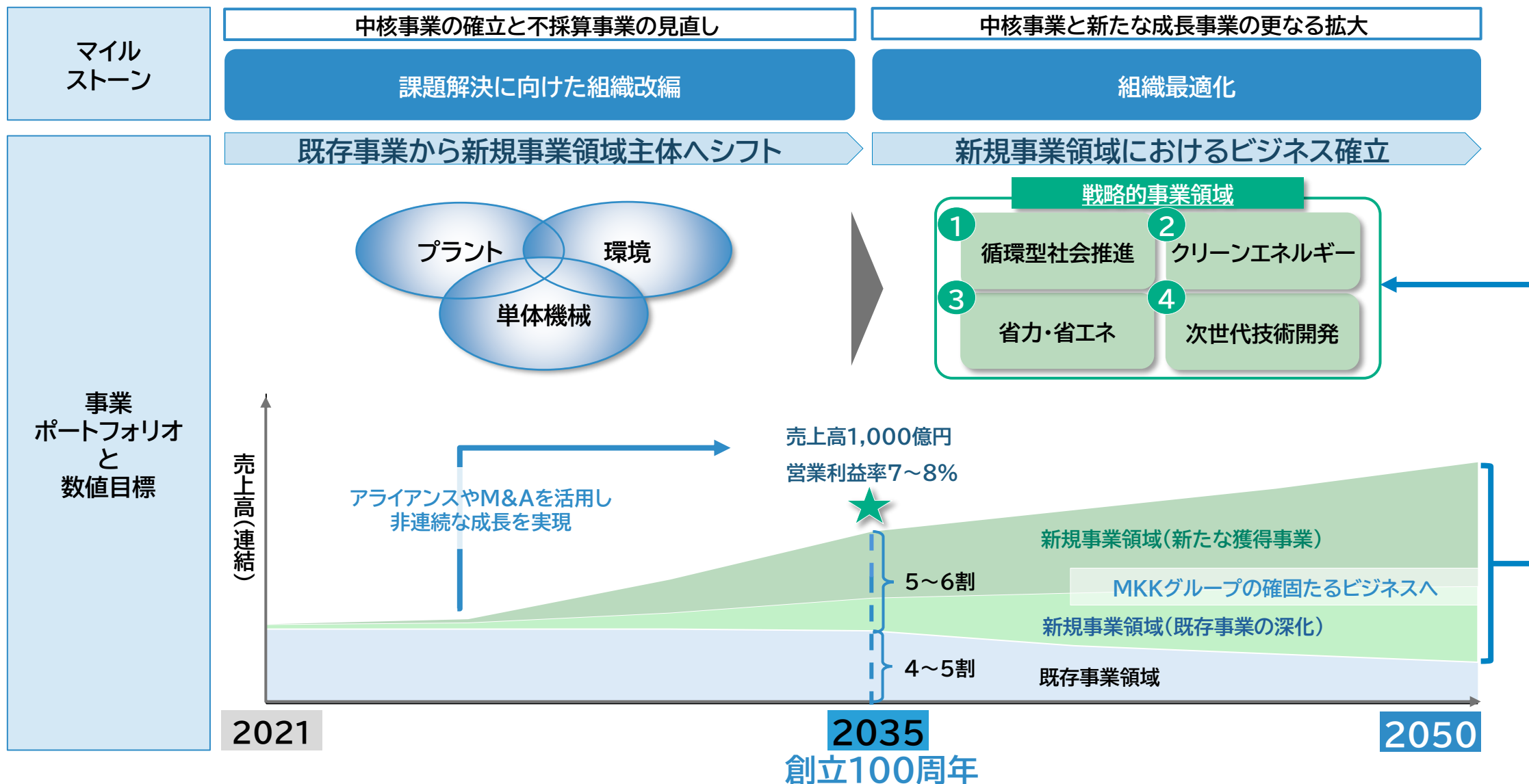
※1 Engineering, Procurement & Construction。プラント建設案件等において、設計、資材調達、建設を一気通貫で手掛けるビジネス
 ※2 当社調べ

経営ビジョン策定後の推進ステージと主要業績数値の推移

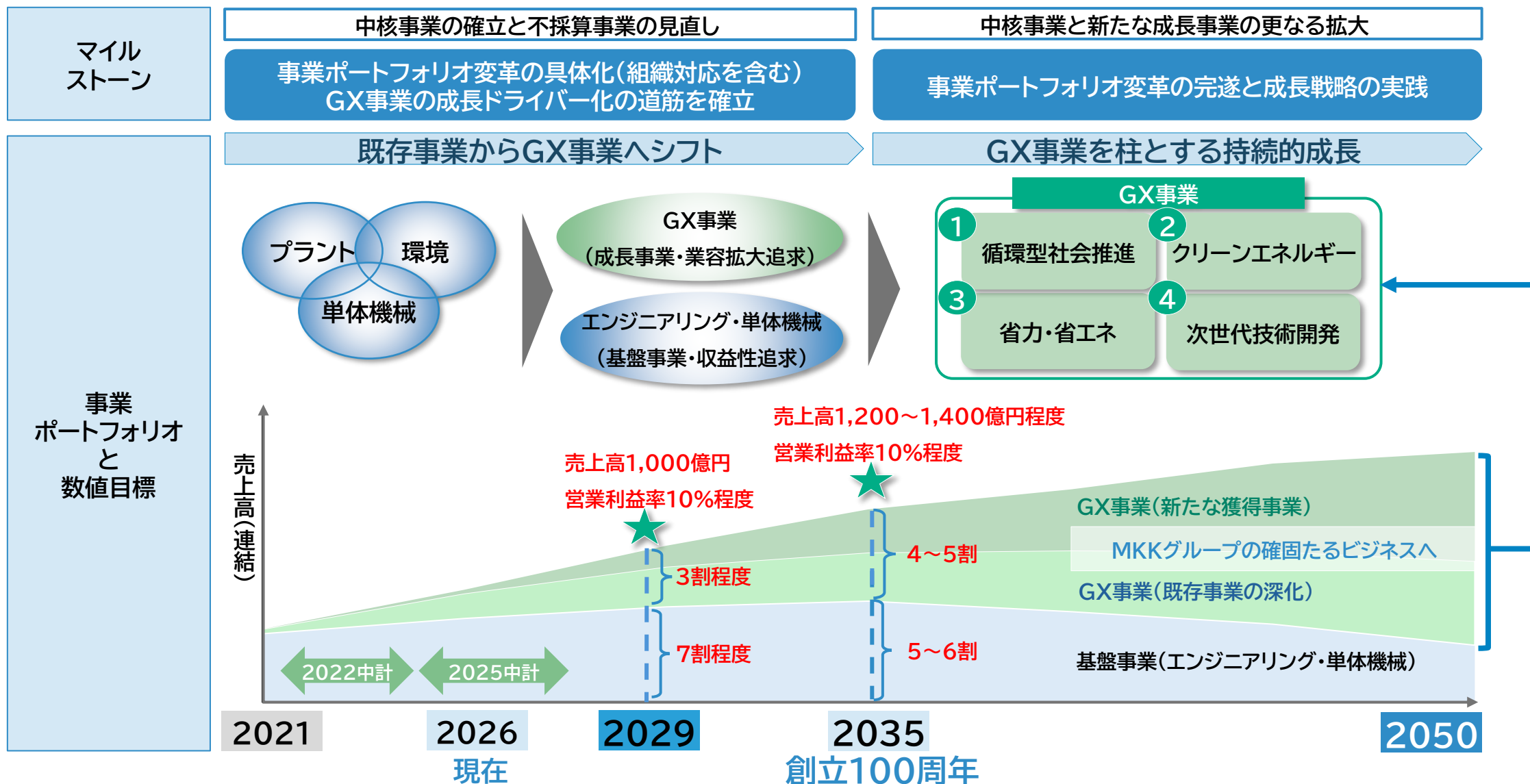
2021年の経営ビジョン策定から5年経過、実現に向けた前進に一定の手ごたえ
 足元は今中計完遂に注力し、その後も、各マイルストーン・2050年を目指して持続的成長を続けていく



【2021年策定時】三菱化工機グループ2050経営ビジョン 事業ポートフォリオ ロードマップ



【2026年アップデート】三菱化工機グループ2050経営ビジョン 事業ポートフォリオ ロードマップ

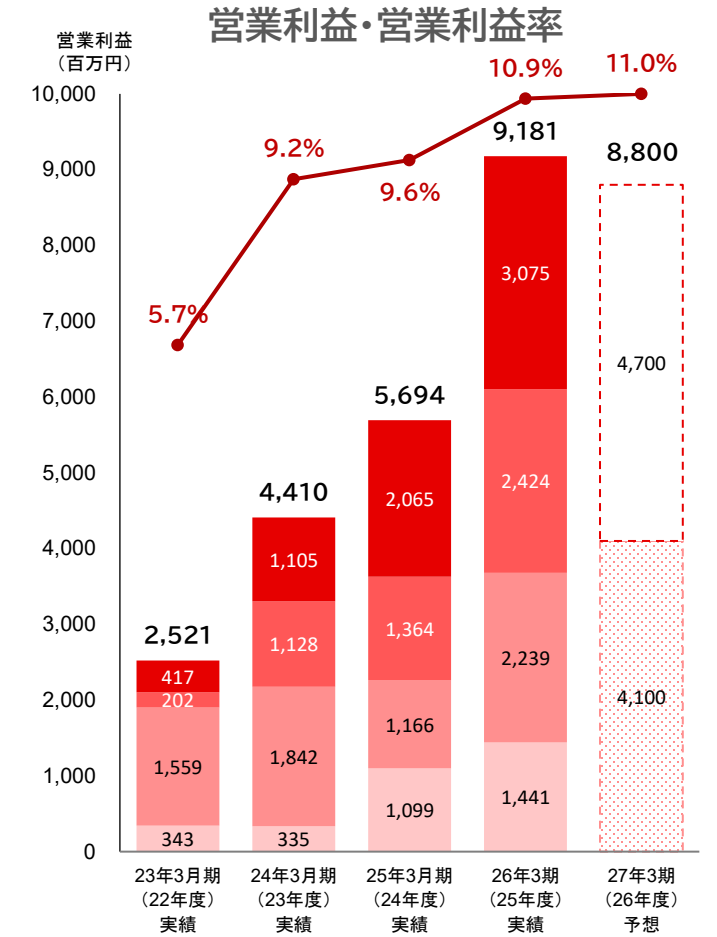
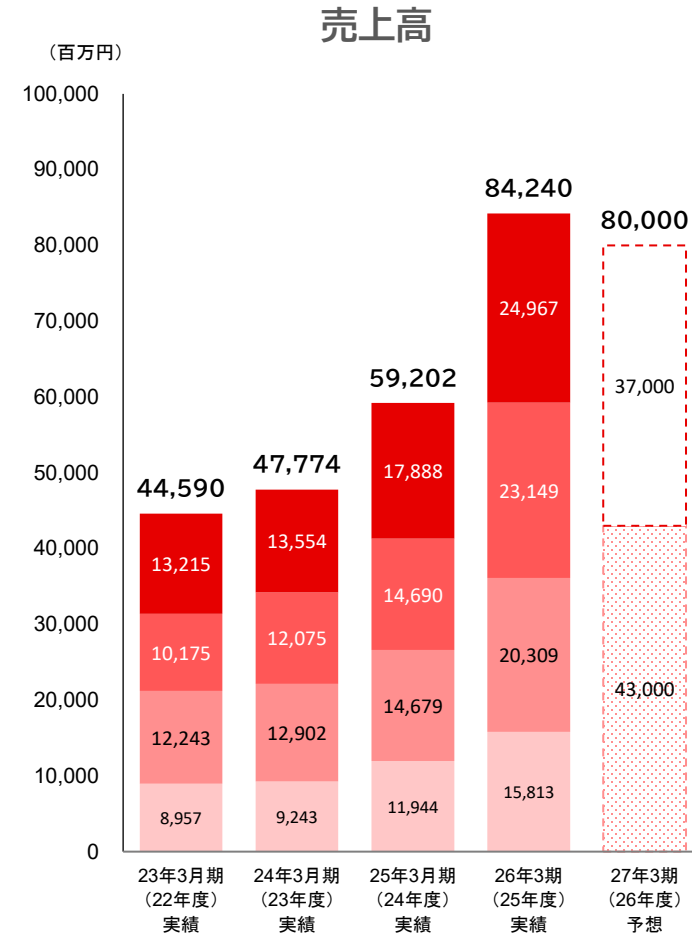
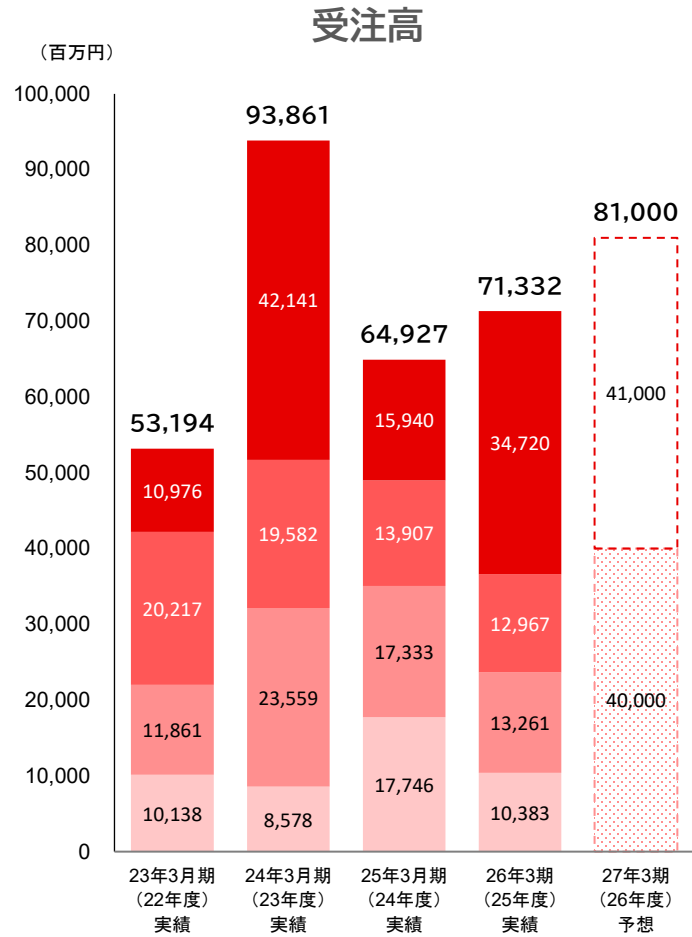


Appendix 1. 業績推移

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

業績の推移

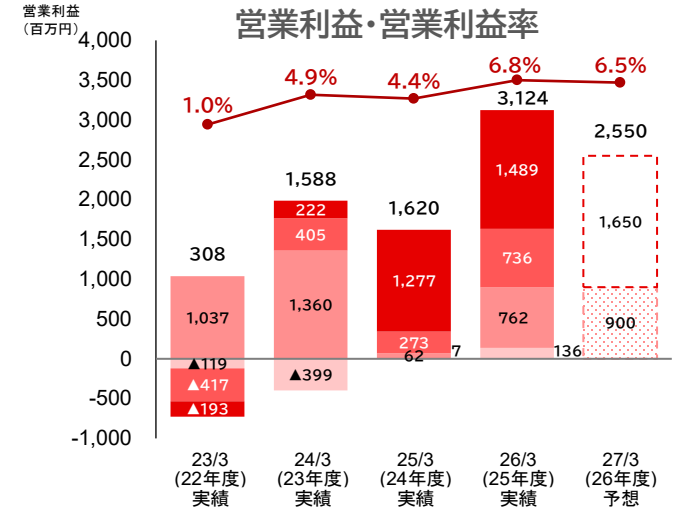
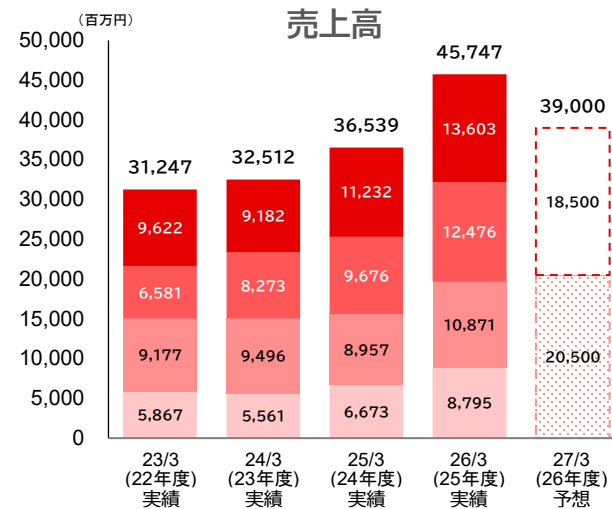
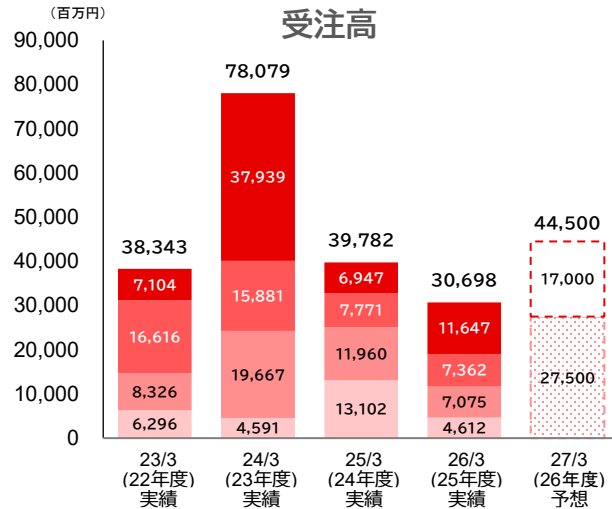


Q1実績
 Q2実績
 Q3実績
 Q4実績
 Q2予想
 Q4予想
 営業利益率/年(実績・予想)

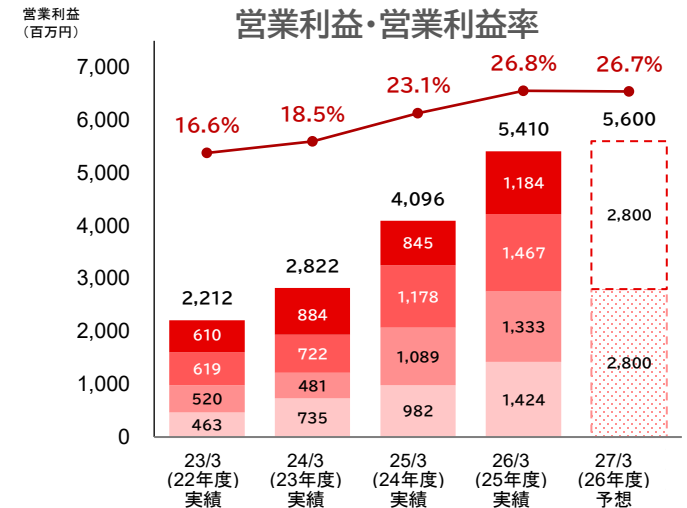
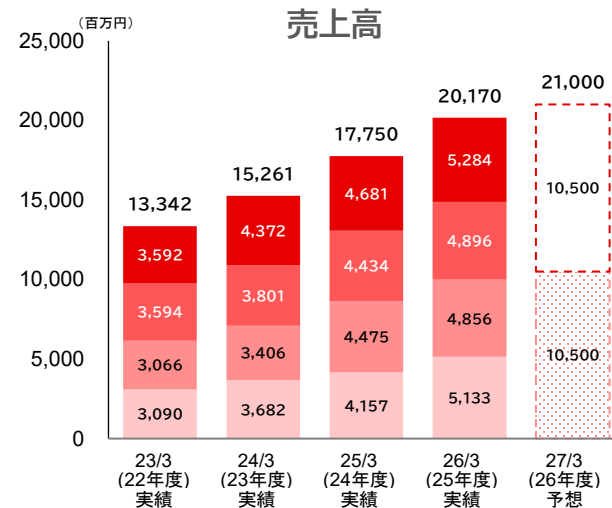
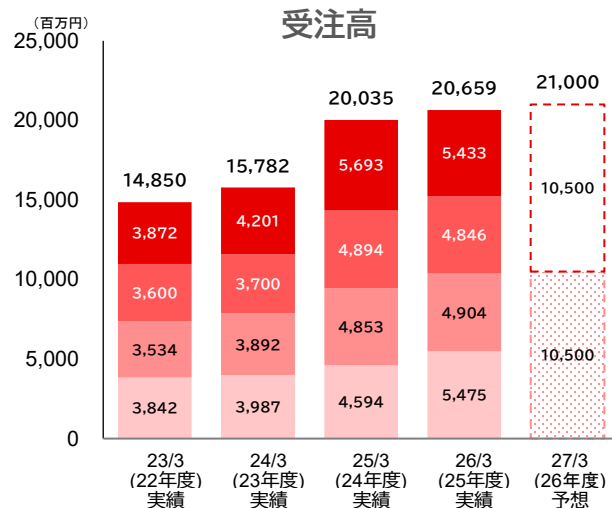
セグメント別業績の推移 1) エンジニアリング事業/単体機械事業



エンジニアリング



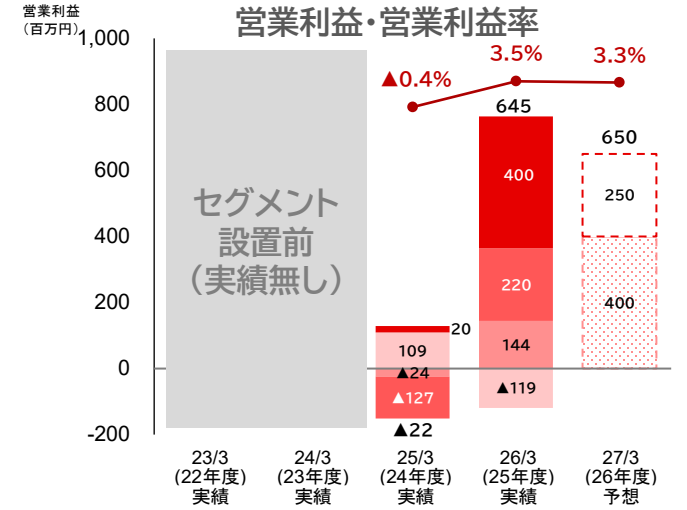
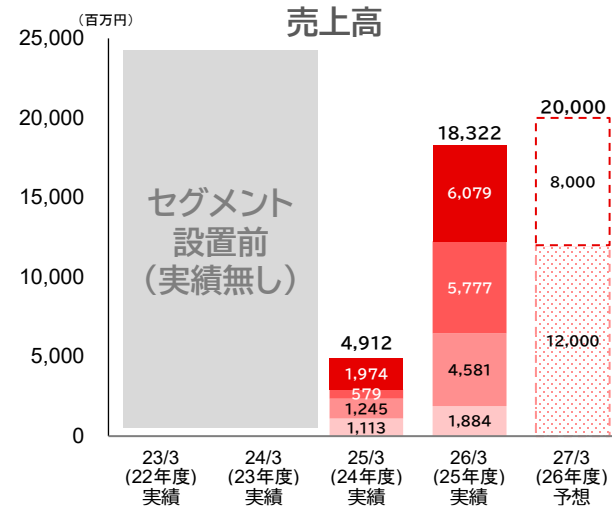
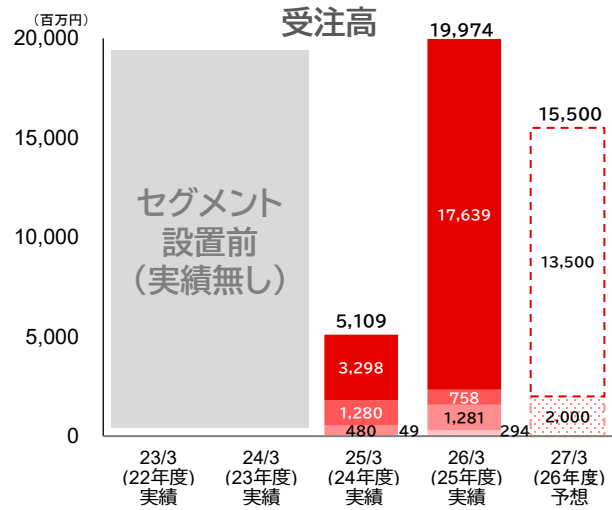
単体機械



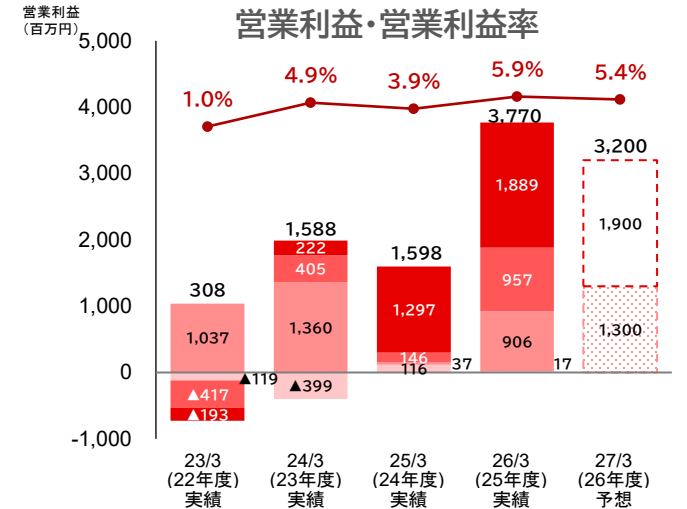
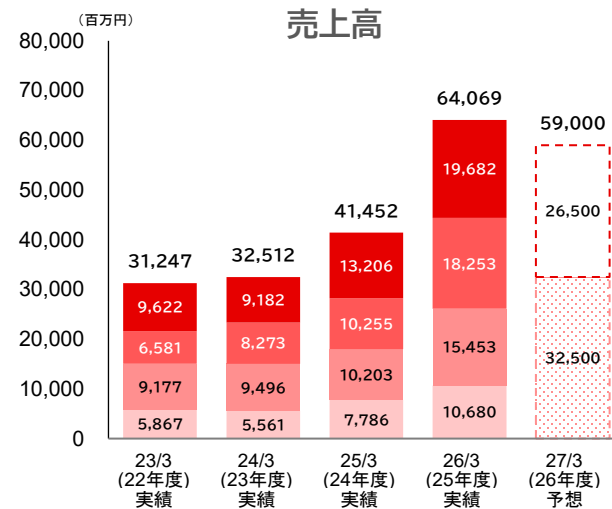
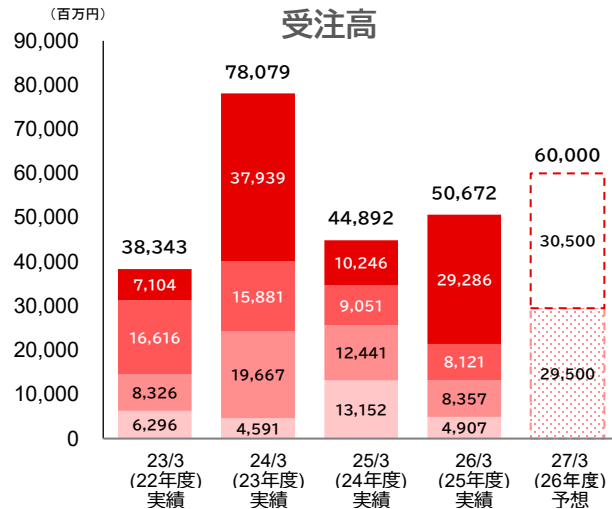
■ Q1実績 ■ Q2実績 ■ Q3実績 ■ Q4実績 ■ Q2予想 ■ Q4予想 ● 営業利益率/年(実績・予想)

セグメント別業績の推移 2)GX事業/エンジニアリング+GX事業

GX



エンジニアリング+GX



■ Q1実績
 ■ Q2実績
 ■ Q3実績
 ■ Q4実績
 ■ Q2予想
 ■ Q4予想
 ● 営業利益率/年(実績・予想)

Appendix 2. 会社概要

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

会社概要 (2026年3月31日現在)

商号	三菱化工機株式会社 (Mitsubishi Kakoki Kaisha, Ltd.)
代表取締役	代表取締役 社長執行役員 <small>たなか としかず</small> 田中 利一
本社	本社: 神奈川県川崎市川崎区大川町2番1号
	本社事務所: 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地 ソリッドスクエア東館
設立	1949年9月 (創立:1935年5月)
資本金	39億5,697万5千円
連結従業員数	1,044名
事業内容	各種プラント・環境設備および各種単体機械等の 設計、製作、据付、販売

上場区分	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	6331
業種区分	機械
発行可能 株式総数	48,000,000 株
発行済 株式数	23,741,850 株
単元株式数	100 株
大株主 (自己株除く)	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) ② 明治安田生命保険相互会社 ③ 三菱化工機取引先持株会 ④ 株式会社日本カストディ銀行(信託口) ⑤ 三菱化工機従業員持株会 ⑥ BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) ⑦ 株式会社横浜銀行 ⑧ DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO ⑨ STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223 ⑩ 第一実業株式会社

事業所一覧 (2026年3月31日現在)



国内拠点



本社	● 本社	営業所	○ 営業所 (東北、横浜、名古屋、広島、九州、沖縄)
	● 本社事務所		工場
支社・支店 ・事業所	○ 大阪支社	海外事務所	● 台湾支店
	○ 四日市事業所		● マレーシア営業所 ● インドネシア駐在員事務所

海外拠点

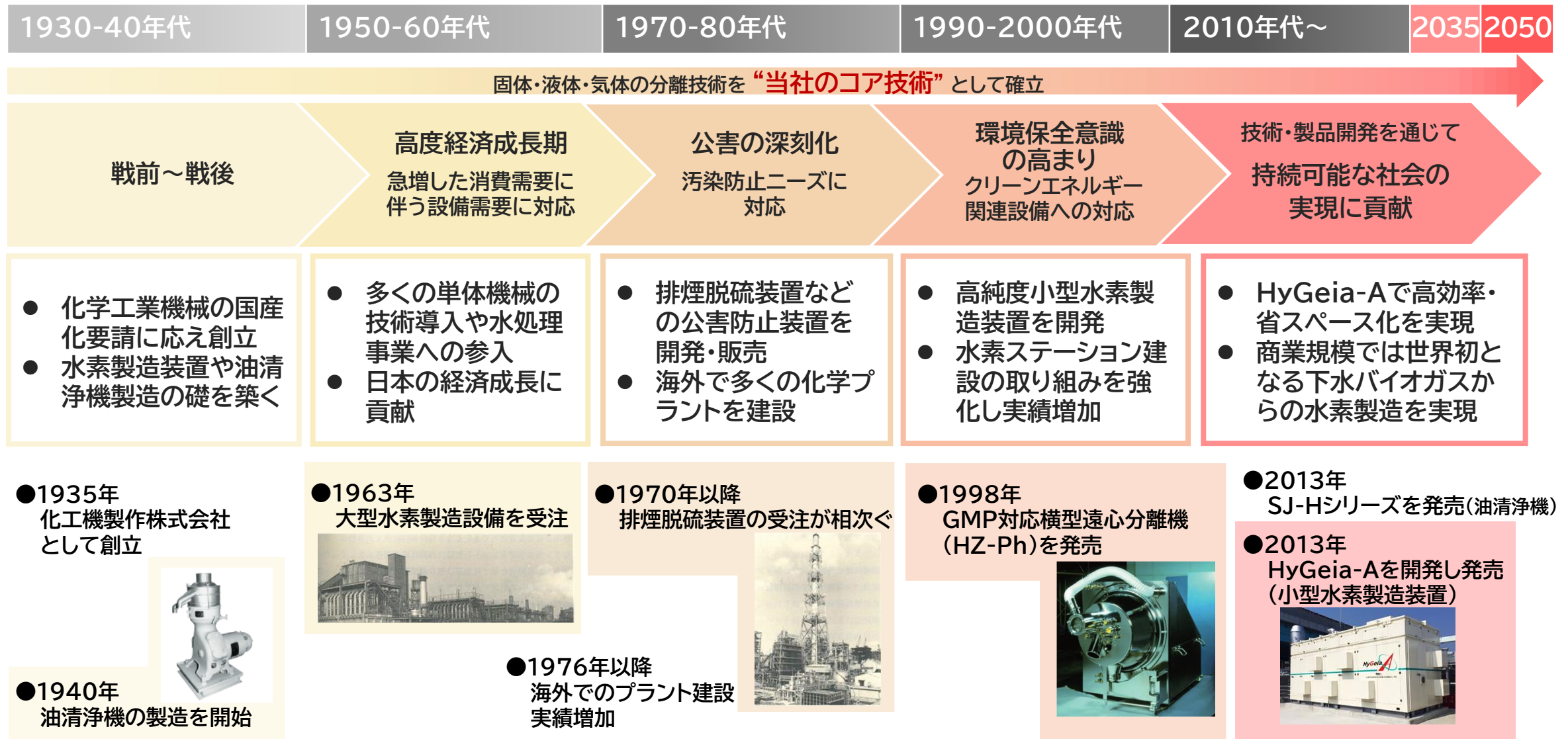


グループ会社	連結子会社	● 三菱化工機アドバンス株式会社 ● 北九州工場
		● MKK東北株式会社(本社・秋田工場) ● いわき工場
グループ会社	非連結子会社	● MKK Asia Co., Ltd.(タイ) ● MKK EUROPE B.V. (オランダ)
		● MKKビジネスプラス株式会社 ● 株式会社MKKi ● 菱化機械技術(上海)有限公司(中国) ● 株式会社日誠工業

事業系統図 (2026年3月31日現在)

事業セグメント / 関連会社	主な事業内容	報告セグメント		
		GX事業	エンジニアリング事業	単体機械事業
三菱化工機株式会社	プラント / 水素・エネルギー / 環境	●	●	
	産業機械 / 船用機械	●		●
子会社				
三菱化工機アドバンス株式会社	下水処理場などの維持管理 / 各種プラント・環境装置の設計、製造、建設、アフターサービス、メンテナンス、維持管理、環境測定、人材派遣等	●	●	●
MKK東北株式会社	強化プラスチック(FRP)製品の製造・販売 / 下水処理場などの維持管理	●	●	
株式会社日誠工業	煙突の製作・監理、プラント配管工事			非連結子会社
MKK Asia Co., Ltd (タイ)	東南アジア地域におけるプラント設備の設計、機材調達、建設、メンテナンス、改造工事		●	
MKK EUROPE B. V. (オランダ)	欧州における船舶機器装置・部品の販売並びに保守・補修等サービス業務			●
MKKビジネスプラス株式会社	厚生サービス、三菱化工機グループ各社へのシェアードサービス			非連結子会社
株式会社MKKi	新規事業形態探索およびビジネスモデルデザイン、イノベーション人材の育成等			非連結子会社
菱化機械技術(上海)有限公司(中国)	中国における船用機器装置、各種分離機および部品の販売、技術支援並びに保守、修理等サービス業務			非連結子会社

沿革



中期経営計画 1) 現中計の位置づけ

● GX事業の成長と売上拡大を図る、経営ビジョンの実現に向けた「飛躍の3年間」と位置づける

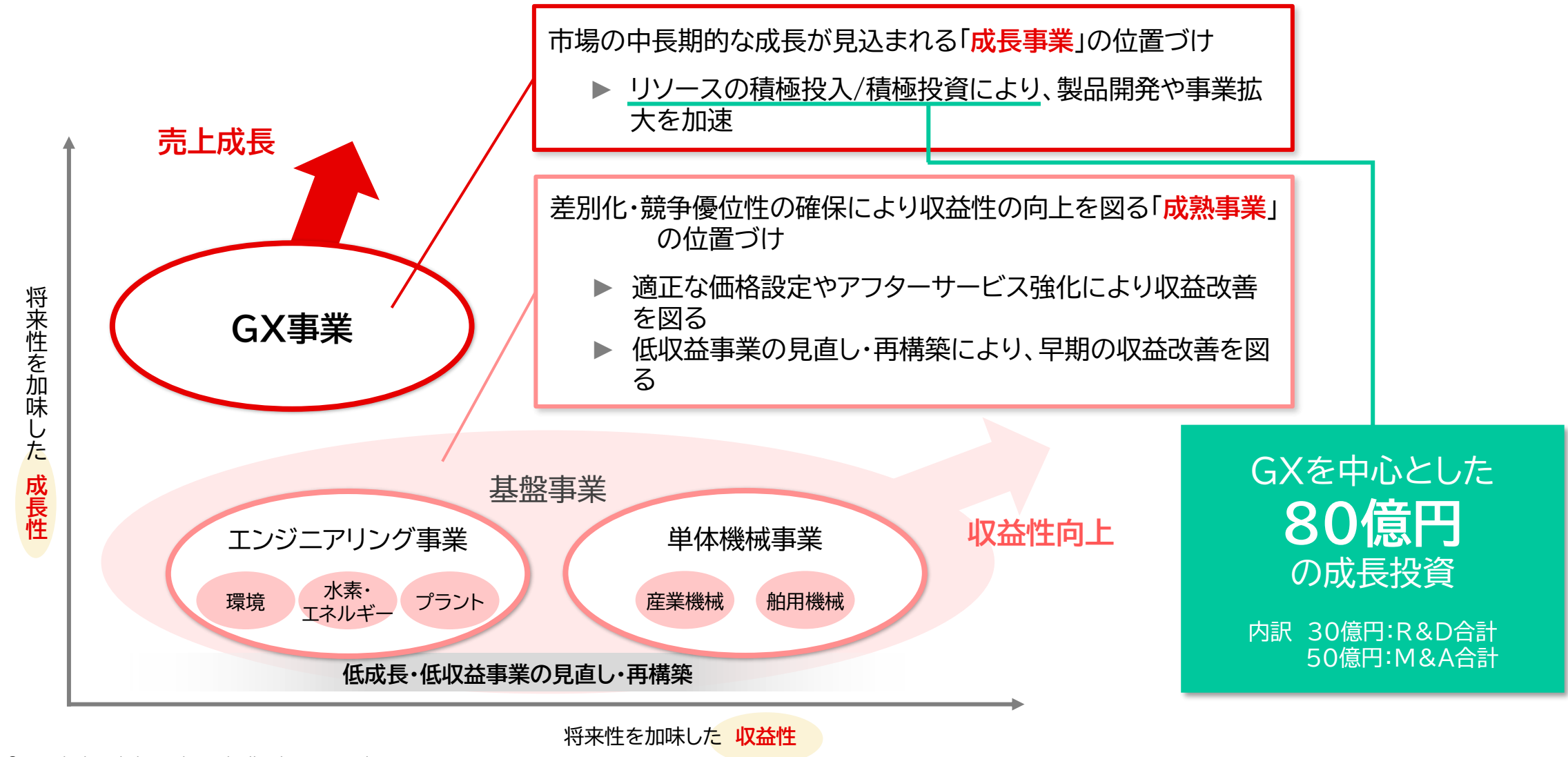


2026年5月15日付で「三菱化工機グループ2050経営ビジョン」をアップデート
 → 2035年度の展望計数を右記の値へ変更 (詳細はP.34～38に掲載のとおり)

- 売上高: 1,200～1,400億円
 - 内、GX: 4～5割
 - 営業利益率: 10%程度

中期経営計画 2)事業ポートフォリオの方向性

- GX事業は売上成長、基盤事業は収益性向上を目指し、会社全体として売上成長と収益性向上の両立を図る



中期経営計画 3) 骨子・主要施策

- 事業ポートフォリオの進化と、資本コスト・株価を意識した経営の確立を実現し、また、それを支える持続可能な経営基盤の強化を図る

目標

「循環型社会推進」「クリーンエネルギー」領域を主とするGX事業の製品・サービスを拡大し、顧客の脱炭素化のパートナーを担う企業

売上高900億円、営業利益率9%以上
PBR1倍以上、ROE12%以上
を達成

事業・財務 戦略

骨子①

事業ポートフォリオの進化

- GX事業の確立
- 基盤事業の競争力強化
- 事業拡大戦略の実践

骨子②

資本コスト・株価を意識した経営の確立

- 成長投資の実行
- 資本効率の向上
- 株主還元強化 / 成長期待を高める情報発信

経営基盤 の強化

骨子③

人的資本・技術資本の強化

- 人的資本戦略の推進
- モノづくり戦略の実践

骨子④

経営ガバナンスの透明性向上

- 事業ポートフォリオ管理 / ROIC経営の浸透
- サステナビリティの推進

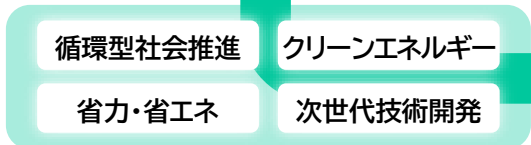
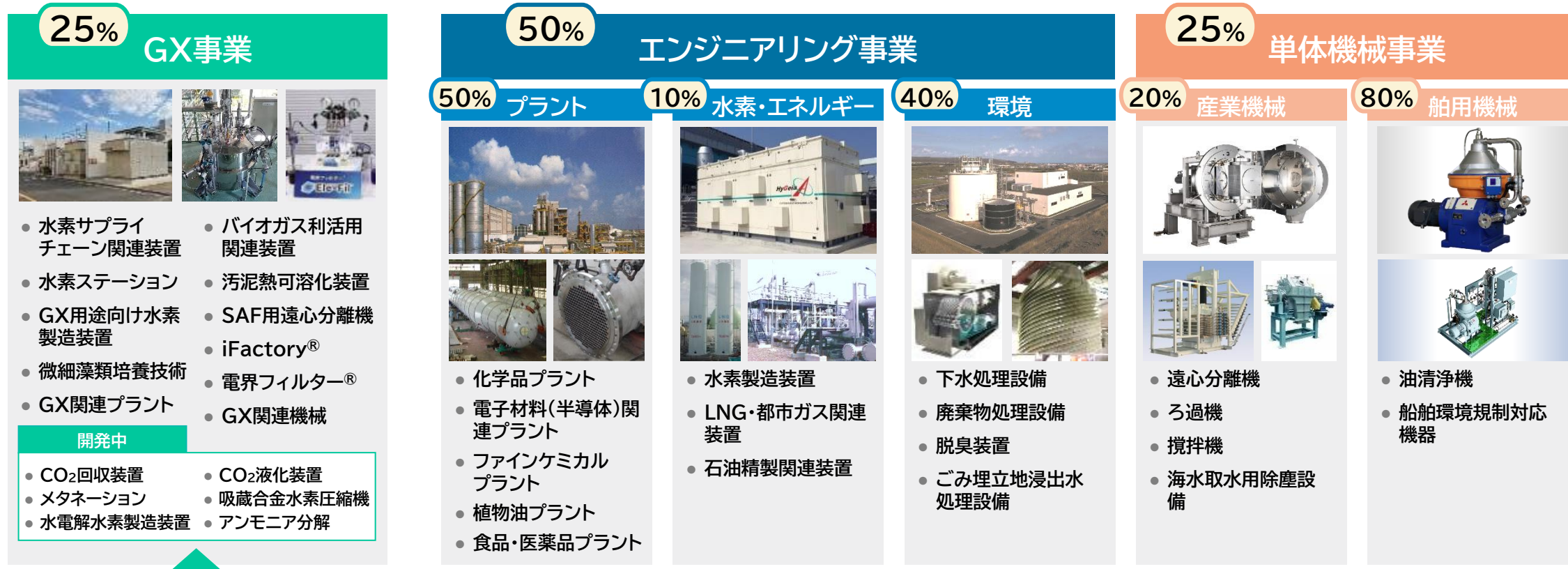
Appendix 3. 当社の強み・ビジネスモデル

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

事業内容

- ケミカル・電子材料関連プラント、水素・エネルギープラント、環境設備を設計・調達・建設する「エンジニアリング事業」
- コア技術である分離・ろ過技術を用いた遠心分離機、ろ過機など各種単体機械を製作する「単体機械事業」
- 経営ビジョンに掲げる「CO₂・気候変動」「資源循環」「水・食料」「労働力不足」「自然災害」の社会課題解決に貢献する「GX事業」



新規技術開発、既存技術・製品の改良、用途の開発により、経営ビジョンに掲げる社会課題解決に貢献する戦略的事業領域に適合

GX事業の製品・サービス 1)4つの戦略的事業領域

- 直近で成長している水素需要へは、水素製造装置などの主力製品を投入して事業を拡大させる
- 今後の成長が見込まれる低炭素水素(ブルー・グリーン水素)やCO₂回収などカーボンリサイクルの領域へは、現中計期間中に市場投入するようにR&Dを推進していく

1 持続可能な循環型社会推進事業

Quick-Win



バイオガスからの水素製造
(バイオガス利活用)

汚泥熱可溶化装置
(バイオガス利活用)

メタネーション
(カーボンリサイクル・水素利活用)

開発中

CO₂液化装置
(カーボンリサイクル)

開発中

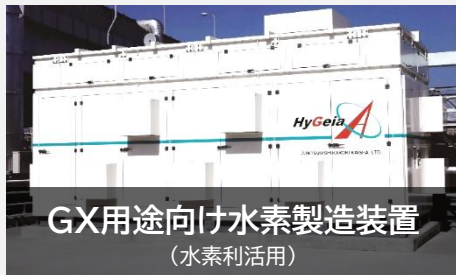
3

デジタルを活用した省力・省エネ事業



2 水素を核としたクリーンエネルギー事業

Quick-Win



藻類培養

水素吸蔵合金配送システム

開発中

吸蔵合金水素圧縮機
(水素吸蔵合金)

開発中

アンモニア分解
(水素利活用)

開発中

水電解水素製造装置
(グリーン水素)

開発中

4

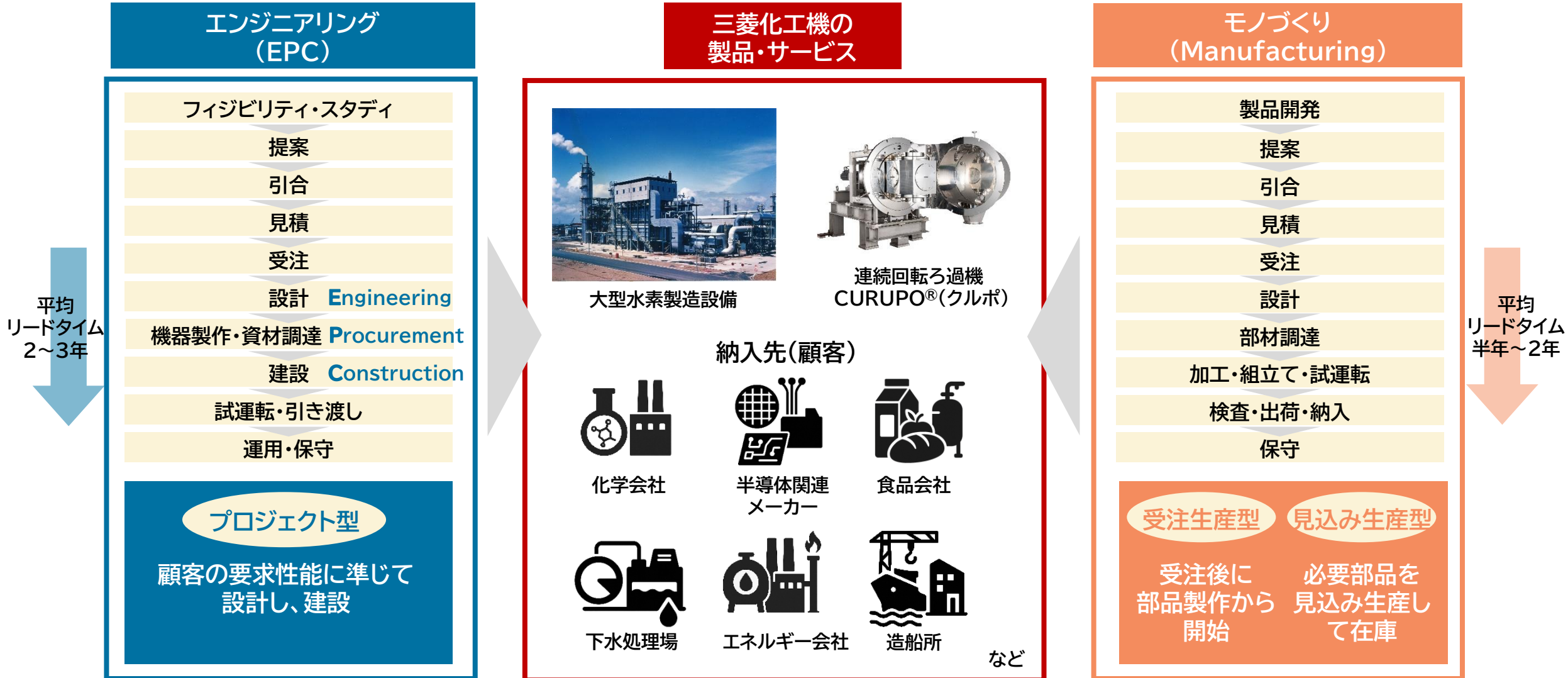
水・食・自然災害等の課題解決に向けた次世代技術開発事業



GX事業の製品・サービス 2) 取り組みの経緯

		～2023年度 (2024年3月期)	2024年度 (2025年3月期)	2025年度 (2026年3月期)
循環型社会 推進事業	廃プラスチック リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃プラスチックのガス化・メタノール化実証試験の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃プラスチックのガス化・メタノール化実証試験を継続中 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃プラスチックのガス化・メタノール化実証試験を継続中
	バイオ燃料	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃食油からSAFを製造する国内初の大規模生産実証設備向けに、三菱ディスクセパレータを受注 ■ 植物油由来のバイオ燃料(SVO)を用いた国内初の実船試験で油清浄機の運用検証に協力 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 船舶用バイオディーゼル燃料の長期利用プロジェクトへの協力が決定 ■ バイオディーゼル燃料に対応した油清浄機部品を販売開始 	<ul style="list-style-type: none"> ■ NK船級より潤滑油清浄機について アンモニア燃料船に搭載することが認められ検査証明書を取得
	バイオガス	<ul style="list-style-type: none"> ■ 汚泥熱可溶化装置が「令和5年度新エネ大賞」の新エネルギー財団会長賞を受賞 ■ 日本最大の下水処理場(東京都・森ヶ崎水再生センター)より、消化ガスを有効活用できる設備の再構築工事を受注 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 森ヶ崎水再生センターの再構築工事を遂行中 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 森ヶ崎水再生センターの再構築工事を遂行中
	CO ₂ 回収	<ul style="list-style-type: none"> ■ PSA法によるCO₂回収実証機の設計を完了、製作開始 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 膜分離法によるCO₂分離回収型水素製造装置の検討がNEDO事業に採択 ■ PSA法によるCO₂回収の実証を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ■ PSA法によるCO₂回収の実証完了、商用機の設計を開始
クリーン エネルギー 事業	水素製造	<ul style="list-style-type: none"> ■ トヨタグループのタイにおけるバイオガス由来水素の製造プロジェクトへ、水素製造装置を納入 ■ 製鉄におけるCO₂削減実証事業より、水素製造装置を受注 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 製鉄におけるCO₂削減実証事業向け水素製造設備を建設中 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大型案件を含め、電炉向け等の水素製造装置の案件を複数受注
	水素 サプライチェーン	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水素の運搬に資する取り組みを実施 ■ 水素吸蔵合金配送システムを実証 ■ アンモニア用途開発の協働を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ■ SPERA水素[®]用の設備をシンガポールへ納入 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水素サプライチェーン構築に向け2件の出資を実施 (Japan Hydrogen Fund, L.P.、日本水素エネルギー) ■ SAF製造設備向け水素製造装置のFEED業務を受注 ■ アンモニア改質器ユニットの製作を完了
	藻類	<ul style="list-style-type: none"> ■ 藻類生産の大規模化に向けた共同開発加速のため、ちとせグループへ出資 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 微細藻類の安定・大量生産に係る研究向けに、子会社が藻類生産設備フォトバイオリクターを納入 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界最大規模の微細藻類生産施設向けに抽出設備一式を受注、マレーシアで建設中 ■ 培養液中の微細藻類回収用として、分離板型遠心分離機「三菱ディスクセパレータ」を受注
省力・省エネ 事業	医薬品製造	<ul style="list-style-type: none"> ■ iFactory[®]の連続稼働実証運転を完了 ■ iFactory[®]の実証試験成功、NEDO省エネルギー技術開発賞最優秀事業者として理事長賞を受賞 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 原薬・電子材料用のベンチスケール固液分離機3製品を新たにラインナップ
次世代 技術開発 事業	精密ろ過 水資源 災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電界ろ過法を用いた世界初のろ過技術を開発 (電界フィルター[®]「Ele-Fil[®]」) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 講演会の開催等によるニーズの掘り起こしを推進 (電界フィルター[®]「Ele-Fil[®]」) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 小型分離板型遠心分離機「LABOCENT[™]」を開発、販売開始 ■ 電界フィルター[®]「Ele-Fil[®]」のユニットモデル販売用リーフレットが完成

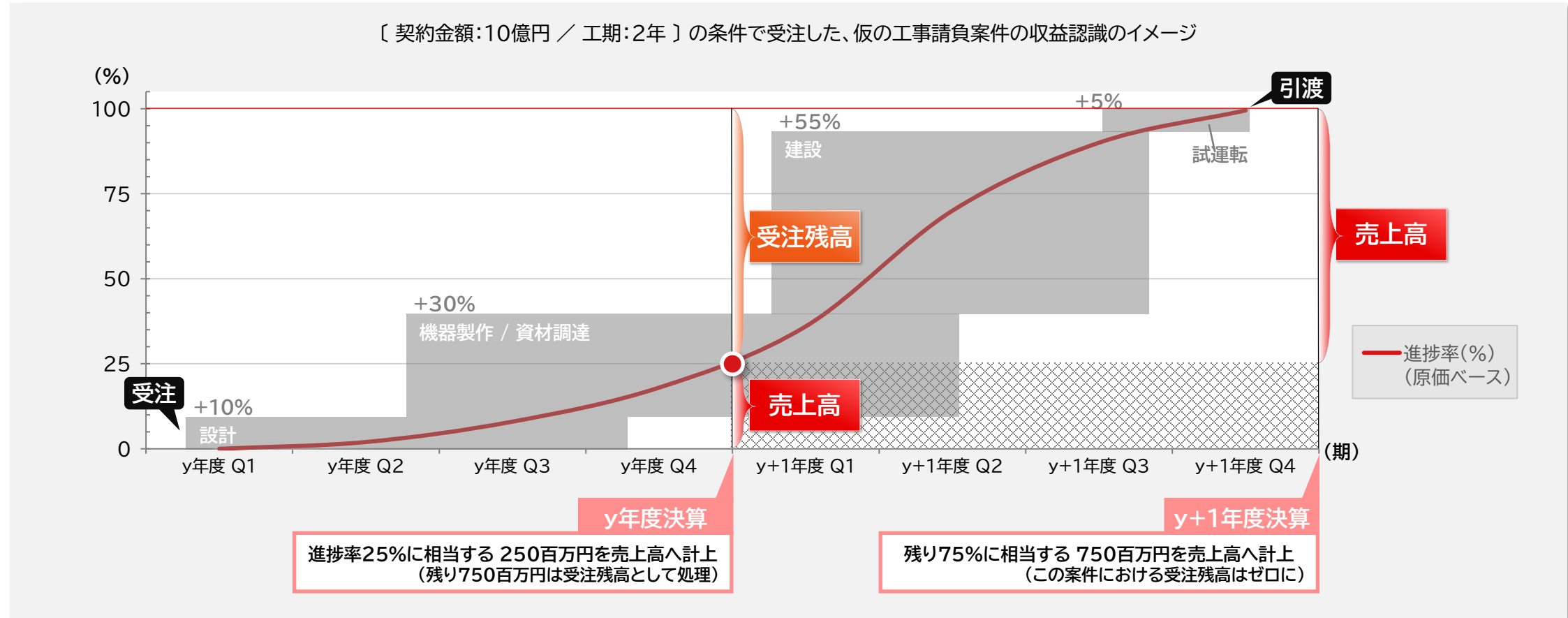
ビジネスモデル



収益および費用の計上基準について(工事進行基準)

- エンジニアリングに係る工事契約の多くは、進捗度に応じて収益を認識(下図のイメージ)
- 各種単体機械の製品販売の多くは、製品の引渡時点で収益を認識

工事案件における収益認識のイメージ(工事進行基準)



IRに関するお問い合わせ先

IRに関するお問い合わせ先

三菱化工機株式会社 企画部

お問い合わせ: ir_team@kakoki.co.jp

本資料に関する注意事項

本資料に掲載の企業、団体等の名称については、敬称を略して掲載しております。

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。



MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKKK